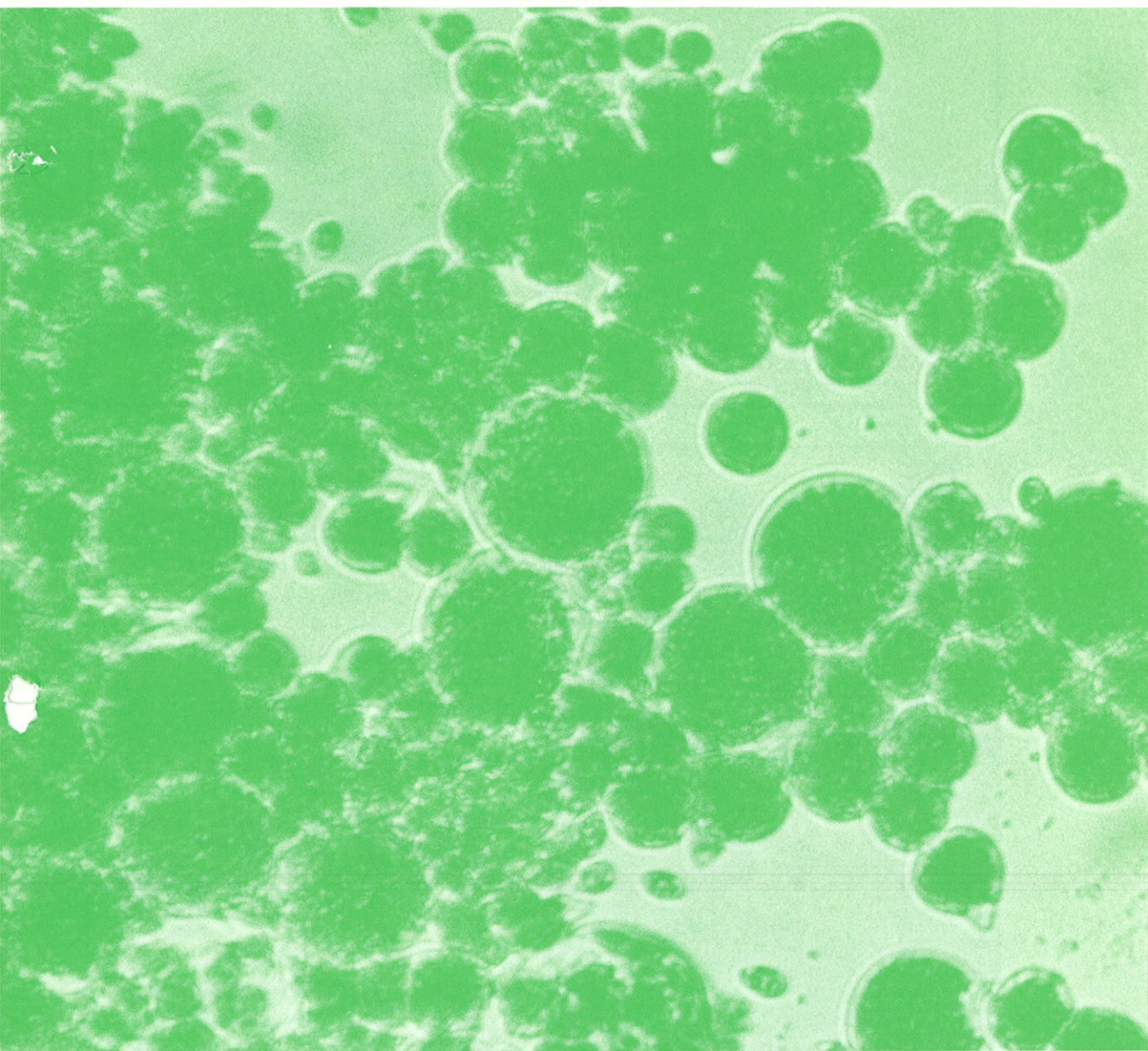


植調

第26巻第12号



緑藻・クラミドモナス属 (*Chlamydomonas* sp.) の拡大写真 (約800倍)

財団法人 日本植物調節剤研究協会編

経済的な水田初期除草剤

MO粒剤-9

ホタルイ等の防除に

ショウロンM粒剤

水田初中期一発処理剤

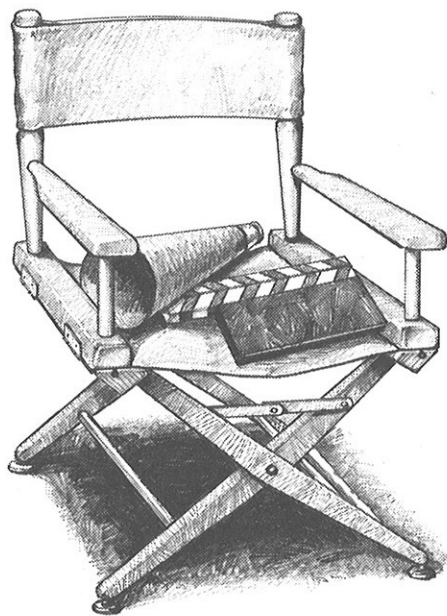
シンザン粒剤

名監督

主役を選び、脇役を固め、
思いどおりのストーリーを
演出する映画監督。
農業でいえば農家の皆さんが、

まさにその人です。
さまざまな資材を生かして、
収穫という名の傑作を仕立てあげる…。

三井東圧化学は、
除草、殺虫、殺菌など
多彩なキャストで、
“実りのドラマ”の演出を
お手伝いします。



三井東圧化学

東京・大阪・名古屋・福岡・札幌

効きめで
選ぶ。
経済性で
決める。

苗にやさしく

雑草に強い水田初期除草剤

- 効めが長く、すばらしい殺草力を発揮。
- 低温でもイネに対して安全。
- 人畜毒性、魚毒性ともにきわめて低く、安心。
- 田植前に使用の場合は散布後3日以上の間隔をあけて田植する。
- 田植後に使用の場合は田植後8日(ノビエ1葉)までに散布する。
- 散布後3日間以上は止水にし、かけ流しはしない。

エックスゴーニ®
粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

エックスゴーニ協議会



ISK

石原産業株式会社

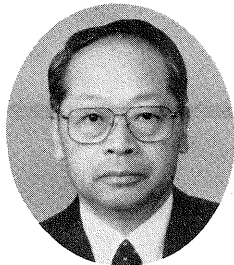
〒102 東京都千代田区富士見2-10-30



日本農薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋1-2-5

○本剤のシンボルマークです



巻 頭 言

環境美化は畦畔の整備から

(財)日本植物調節剤研究協会 常務理事 小澤 啓男

最近、環境問題の議論が盛んであるが、その中で、水田は国土の環境保全に重要な役割を果たしているとの機能がようやく評価され始めた。

水田は単なるコメを作るだけの場ではなく、雨の多い傾斜地形の日本列島では治水、土壤流出防止などダムに劣らぬ機能を発揮している。これをダム建設費に換算したら、7～8兆円になるとの試算を目にしたことがある。農業は日本のお荷物産業のように批判している経済学者もこの点は認めざるを得ないところであろう。

私の生まれ育ったところは、総戸数40戸足らず、標高750メートルを越し、縦に長い山合いの集落で、たんぼと呼ぶのにふさわしい一筆10アール足らずの水田を、何故か互いに分散耕作していた。夏の来るのが遅い、寒い高冷地で、移植と共にイネを健全に育てるには水への依存が極めて大きく、水の重要性は折々に、親から周りの人達から教え込まれた。水を保持するために、畦畔の『あぜぬり』は極めて大事な農作業であり、この時間を要する多労な作業の辛さを、手伝いつつ味わったものである。顔に泥をとばしながら、無心に畦塗り作業を続けている農夫の姿は、いま3Kの一つなどと軽々しく口にする人に比し、一生懸命すぎる程一生懸命で誠実すぎる程誠実な人間本来のあるべき姿として脳裏に焼き付いている。

すき、くわを用いた耕起がエンジンのうなりに代わり、月明かりで苗取りをして、暗くなるまで続いた田植えも機械化され、あの四つん這いの最も苦痛な草取りからも解放された現在、水稻栽培は大きく様変わりした。とはいえ、水をためて栽培することには変わらない。とすれば、あぜの重要性は依然として変わらない筈である。

水田の区画整理がまだ進まない頃、畦畔は水

田の一割に近い面積を持ち、とくに山間の水田は小さくてもあぜ塗りは2キロにも3キロにも及び、数日を要した。いま、畦畔は水田面積の6%程度にまで減ってきているが農家があぜの手入れをしなくなったら、降り続く雨であぜは崩れ易く、ダム機能を失い下流は溢水する。

あぜ作りはこのようになかなか大変であるがこれを健全に保つためには、畦畔に生える雑草管理も重要である。イネは通常、畦畔沿いの生育が優れる。草管理を良好にして通風、採光を良くした状態では畦畔に接したイネの生育は良く、数%の収量増が認められている。これを周辺効果という。しかし、逆に管理不良の状態ではイネの生育、収量に悪い影響を及ぼし十数%減の例さえ見られる。かつては、家畜の飼料として価値のあったあぜ草もその意味を失い、刈り捨てるだけになった。この草刈りは田植え前に一回、イネの分けつ期から出穂前にかけて一、二回、収穫する前に一回行うのが一般的であり除草剤は最初の管理に利用されることが多い。背負い式の草刈機で10アールの畦畔の草を刈るのには、小一時間を要する。

今後、農業の担い手の高齢化がすすむことや少数の担い手が貴重な水田を守り収量を安定維持していくためには、必然的に区画の拡大がすすめられ、これに伴って畦畔も長大する、などを考えると、畦畔の保全管理方法について早急な検討が必要である。協会では生育調節剤を利用して、草丈伸長を抑えて短草化する技術の開発研究をすすめ、ゆくゆくは畦畔に適する植物(カバークロップ類など)を育成して、管理の容易な草生畦畔の造成などを計画している。

瑞穂の国にふさわしい美田の連なる景観を是非、維持継続したいと考えるからである。

目 次

(第 26 卷 第 12 号)

巻 頭 言

環境美化は畦畔の整備から…………… 1
 <財>日本植物調節剤研究協会
 常務理事 小澤啓男>

除草剤開発の思い出(12)…………… 3
 <財>日本植物調節剤研究協会
 顧問 吉沢長人>

関東・東山・東海地域における水田雑草
 の発生状況と防除上の問題点…………… 9
 <農業研究センター耕地利用部
 水田雑草研究室長 芝山秀次郎>

平成4年度水稲作関係除草剤試験成績
 概要……………17
 <財>日本植物調節剤研究協会
 技術部>

文 献 抄 録……………71
 <財>日本植物調節剤研究協会
 技術顧問 金澤 純>

使って安心、三共の農薬。



●水田初期除草剤

サンバード[®] 粒剤

●水田初期一発処理剤

クサホープ[®] D 粒剤

●水田初期一発処理剤

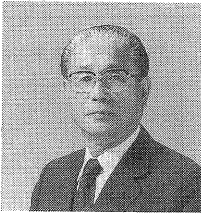
ミスラッシュヤ[®] 粒剤

●水田初・中期一発処理剤

**ザーグ[®] D粒剤17
粒剤25**



三共株式会社



除草剤開発の想い出⁽¹²⁾

(財)日本植物調節剤研究協会 顧問 吉沢長人

茎葉兼土壌処理剤スエップM剤について

いままで、除草剤の利用は土壌処理剤か、茎葉処理剤などがそれぞれ単剤で使用されておりました。

それが農業の変貌と発展、雑草群落の遷移などにより、従来充分防除できた処理方法では防除できなくなりました。すなわち、一年生雑草のノビエ、コナギなどが主体の場面では比較的容易に防除されていましたが、昭和42年頃から多年生雑草のホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、オモダカ、クログワイなどの発生が目立ちはじめました。これら多年生雑草の大部分は塊茎、鱗茎など地下茎で発生増加すること、その発生時期が揃わずに不斉一であることなどにより、その防除が厄介でむづかしく、年々増加の一途をたどるといった困った状況でしたので、当植調協会が全国農業改良普及協会を通じて調査を行った結果、昭和46年度には多年生雑草の発生は総計で997,000 haであったものが、年を追うごとに大きな増加をみせ、同49年度には2,015,000 ha、同57年度は3,450,000 haと水稲作付面積2,231,000 haの154%と異常発生していることが、はじめて判りました(表1)。

そこで、これらの雑草の発生に対応して、有効な除草剤の開発・利用が緊急課題になったのであります。もうひとつの問題点は、それまで、

成苗移植栽培が主流でしたが、昭和42年頃から当時の農林省東北農試の木根淵部長などが中心となって、新しい稲作法として、稚苗移植栽培の研究開発がいろいろと、試行錯誤を繰返しながら、着々とその成果をあげてきたことであります。当時の農民が田植労働作業が大変過酷な労働であって、それが稚苗機械移植栽培法の確立によって、腰をかかめた田植作業が、立ち作業に変わり、かつ機械力によって行われるため、作業能率の飛躍的増大という大改革を実現し、稚苗移植栽培の確立が切実に期待されたわけがあります。

この様な諸般の事情に対応する除草剤が要請され、その方向に副うこととして考えだしたのが、茎葉兼土壌処理剤でありました。

問題は成苗移植栽培は、5～6葉苗を移植するのに比べて、稚苗移植では、2～3葉苗の若



<写真1> スエップM粒剤

表 1 多年生雑草の発生面積

(単位は千ha, ()内は対作付面積%)

年 度	水稻作付面積	多年生雑草総面積	ホタルイ	ウリカワ	オモダカ	ヘ ラ オモダカ	ミズガヤ ツ リ	クログワイ	ヒルムシロ
昭 46	2,628	997 (41)	225 (9)	229 (11)	256 (10)		287 (11)		
49	2,658	2,015 (77)	532 (20)	525 (20)	388 (15)		477 (18)	93 (4)	
51	2,741	3,407 (125)	677 (25)	822 (30)	490 (18)	334 (12)	554 (20)	210 (8)	320 (12)
52	2,692	3,404 (126)	725 (27)	768 (29)	520 (19)	359 (13)	576 (21)	241 (9)	215 (8)
53	2,516	2,602 (122)	594 (28)	598 (28)	320 (15)	316 (15)	472 (22)	172 (8)	130 (6)
57	2,231	3,450 (154)	912 (41)	834 (37)	454 (20)	348 (16)	543 (24)	217 (10)	142 (6)

令苗を移植するため、苗令で約3葉の違い、すなわち、日数にして10～15日程、効力の持続性の長いものでなくては、十分な効果が期待出来ないことです。従って、今までの土壌処理剤の大部分はその効果の持続性が25～30日位ですの、やや効果の不足することが問題となりました。

そこで考えられたのが、二種以上の除草剤を混合することによって効力の持続性を長くすること、また一年生、多年生雑草を同時に防除出来ることになると判断し、当協会として考えられた方法、すなわち、茎葉兼土壌処理法という新しい処理方法を創案した次第であります。

この茎葉兼土壌処理法は日本的な利用方法でありまして、世界的には土壌処理法と茎葉処理法との二つがあります。

水田の代表的雑草であるノビエは水田に水が入ると直ちに発生し始め、その後急速に生育する雑草で、日本では最も防除が重要な害草です。一時期水田に生育の進んだノビエの穂と稲の穂

が二段になって発生する異常な風景がよく見られたのであります。

そこで、ノビエ1.0～2.0葉期の雑草を接触的に枯草し、しかもその後発生する雑草も土壌処理的に抑えるもので、しかも一つの除草剤(混合剤)を利用して行うこと、これが茎葉兼土壌処理法であります。

現在、土壌処理法として使用されている除草剤は数多く、その主なるものに、MCC・MCP(スエップM)、ベンチオカーブ・シメトリン(サターンS)、モリネート・シメトリン(マメット)、モリネート・シメトリン・MCPB(マメットSM)、ベンチオカーブ・シメトリン・MCPB(クミリードSM)、ジメタメトリン・ピペロホス(アビロサン)、ジメタメトリン・ピペロホス・ベンタゾン(ワイダー)、その他があります。

この茎葉兼土壌処理剤の使用面積は極めて多く、最近は一発処理剤におされて約40万haとなりましたが、約20年間はこの茎葉兼土壌処理

剤が主役で、とくに、昭和52年のピーク時には約205万haと水稻作付面積220万haの93%を占めていることでも判ると思いますが、如何にわが国の水稻用除草剤として貢献したことが判ります。

茎葉兼土壌処理法も、また当協会の開発した方法であります。

それが更に後代になりますと「土壌処理法」～「茎葉兼土壌処理法」～「茎葉処理法」という体系除草法となり、その利用価値を高め、水田除草法の改革に大きな貢献をしたものであります。また、この「体系除草法」を別名初期剤～中期剤～後期剤とも呼称されていることは御存知の通りであります。

スエップM剤について

茎葉兼土壌処理剤の第一号となったスエップM剤の概要を紹介します。

この剤はアメリカFMC社が開発したスエップ剤に、日産化学工業KKが先に導入して茎葉処理剤として使用されているMCP剤とを混合して出来たものであります。わが国にスエップ剤（単剤）が導入されたのは昭和39年度からであります。

当初は畑作用除草剤（陸稲）としてでございました。その特徴とするのはイネとノビエの間に選択殺草性があるとされ、画期的な除草剤として注目されたものです。又、それを直播水稻用にも利用されました。それを更に水稻移植栽培にも使用を試みられた次第であります。特に水稻移植栽培法としては土壌処理剤として試験が行われ、その結果についてみると除草効果はイネ科雑草には極めて大きいが広葉雑草には効果があまいことが認められ、水稻とノビエの選択殺草性については、ある程度の選択性はみられ



＜写真2＞ 散布状況

るものの十分ではなく、土壌処理では水稻に大きな薬害がみられました。特にカーバメイト系や有機リン系の殺虫剤との近接散布（10日以内）は、分解酵素の動きがおさえられて、MCCそのものが稲体中に異常に蓄積されるため、葉枯れ等の薬害形成作用を大きくするため、このままでは使用が困難でありました。そこで薬量を低濃度にして試験しましたが、それでも薬害を回避することは困難でしたので、除草剤としての利用性がないのではないかと考えられていた次第であります。

その時に、当協会が日産化学工業KKにアドバイスをしたのが、スエップ剤の薬量を少なくし、それにMCPを混用すること、更に使用方法を土壌処理剤でなく、新しく考えられた「茎葉兼土壌処理剤」として使用したならばどうであろうかということでありました。

当時の日産化学工業KKのスエップ剤の担当者には、外岡部長をはじめ間課長（後部長）、浜口、荒井、吉野（前農林省中国農試場長）の諸氏がおられたが、特に荒井、吉野両氏が積極的に「茎葉兼土壌処理剤」として、その混剤化をすすめ、三つの混合剤として、当協会に試験を委託して参ったのであります。その後委託試験については小淵氏を中心にすすめられまし

た。

その結果は皆様よくご承知の通りであります。当協会の実用化が認められ、農薬登録になったのは昭和44年度からであります。それが茎葉兼土壌処理剤の第一号となったのであります。その普及面積は、当初13万haであったが、その後急上昇をし昭和46年度には最高26万haにもなったのであります。これによってスエップM剤と茎葉兼土壌処理剤が一躍有名となり、次に各種の除草剤が出現することになった次第であります。

スエップM剤の試験経過の概要を紹介致しますと次のようであります。

1. 成苗移植栽培法とスエップM剤では昭和42, 43, 44年度の3年間にわたって、剤型は昭和42年度はスエップM剤のA剤(M

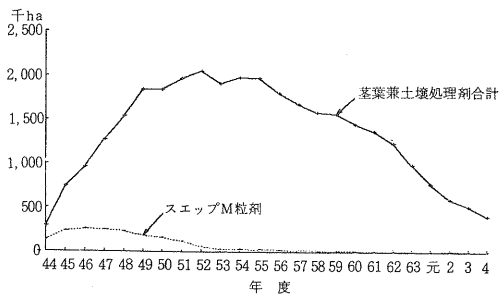


図-1 茎葉兼土壌処理剤(スエップM粒剤)の使用面積の推移



＜写真3＞ マツバイの発生が多い水田に散布した効果(左: 無処理, 右: 処理)

CC 15% + MCP 0.8%), B剤(MCC 20% + 0.8%), C剤(MCC 20% + MCP 1%)の3種類についての試験が行われました。その結果はノビエ発生盛期〜2, 3葉期までの処理での効果は、一年生雑草、マツバイに対して極めて大きく、しかも水稻に対しては田植後7〜15日の処理でもム〜ビ程度で、特に減水深の少ない地帯では問題がなかったことが実証されました。

昭和43年度にはスエップM剤の成分比を次の如く改善した。MCC・MCP 20粒剤(MCC 20% + MCP 0.7%)については25場所、MCC・MCP 15粒剤(MCC 15% + MCP 0.7%)は6場所で試験が行われました。除草効果は、いずれも極大であったが、水稻に対して中国以西で生育抑制やロール葉などが出たことで高温条件下での薬害発生要因について明らかにする必要があるとされました。

昭和44年度には、前年と同量で試験が行われましたが、結果は殆んど変りなく、但し薬害については分けつ抑制やロール葉などがみられたが、九州の高温条件を除く地域で収量にまで影響することはないと認められ、判定は「実と継」となった次第であります。

2. 稚苗機械移植栽培とスエップM剤では昭和43年にMCC・MCP 20粒剤について8場所で試験が行われましたが、この頃は稚苗移植時の苗令、処理時の苗令、気温との関係など明確になっていないので、その点を明らかにし次年度に検討することとしました。

従って、昭和44年度にはスエップM 20粒剤(MCC 20% + MCP 0.7%)について北海道を除く13場所で試験が行われました。効果についてはスエップM 20粒剤単用ではノビエ葉令2葉まで、前処理剤MO, NIP粒剤との体系処

表2 田植機利用面積の推移

年 度	水稻作付面積 ha	田植機利用面積 ha	割 合 %
昭 46	2,626,000	228,800	8.7
50	2,719,000	1,666,000	61.2
51	2,741,000	2,008,000	73.2
60	2,318,000	2,230,000	96.2
61	2,280,000	2,216,000	97.2
平 2	2,055,000	2,022,791	98.4
3	2,033,000	2,005,515	98.6

理では移植後25～30日処理で全草種に極大の効果が認められた。しかし水稻に対する葉害は成苗移植と異なり、MCC・MCP粒剤による初期生育の抑制がやや大きくなることが認められた。従って初期土壌処理剤(MO, NIP)との体系処理で本剤の使用時期を移植後25～30日

とし、特に処理時の水稻の葉令は6葉期以後が安全であるという使用上の注意事項を加えて実用化が認められた次第であります。

昭和45年にも同様な試験が繰返し行われたが、昭和44年度の体系と大体同様でありました。

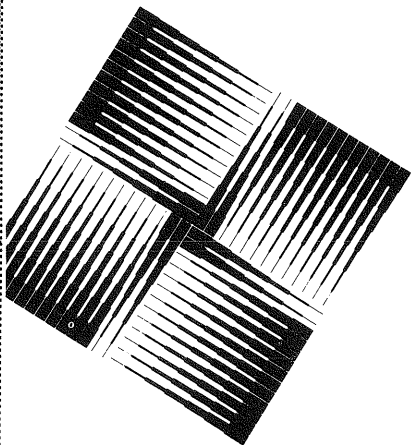
なお、この年から北海道用のMCC・MCP 15粒剤について試験が開始されました。

以上のことから、スエップM粒剤は成苗、稚苗移植栽培用として農薬登録が行われ普及に移されることになり、MCPが含まれていることへの注意、カーバメイト系や有機リン系の殺虫剤、殺菌剤との関係などについては農家に適切に指導することによって普及が図られました。

なんとしても、スエップM粒剤は水田除草剤史上茎葉兼土壌処理剤の第一号として登場した除草剤であります。

ここにあらためて、日産化学工業KKの各位に対し、その努力に敬意を表するものであります。

水田多年生雑草に、落水処理であざやかな効果



散布適期が広く、使いやすい除草剤

バサグラン®

粒剤(ナトリウム塩)、液剤(ナトリウム塩)

適用雑草 ● オモダカ・クログワイ・ミスガヤツリ・ウリカワ・シズイ、水田一年生広葉雑草等

効きめと安全の信頼にたえる

 **住友化学**

原体販売元＝住友化学工業
東京都中央区日本橋2丁目7番9号

バサグラン普及会

クミアイ化学工業・三共
サンケイ化学・日本農薬
北興化学工業・八洲化学工業
事務局＝住友化学工業

®は西ドイツBASF社の登録商標です。

「確かさ」で選ぶ…バイエルの農薬

雑草防除の基本はノビエ対策!!

ヒノクロア®

新しい時代のヒエ剤

特長

- ①ヒエに安定した高い効果。
- ②処理適期幅が広く使い易い。
- ③土壌吸着力に優れ、移植水稻に安全性が高い。
- ④残効性に優れる。
- ⑤毒性が低く人畜、魚介類に安全性が高い。

水田初・中期一発処理除草剤
処理適期幅が広く効果的

ザーグ® 粒剤



アクト® 粒剤



水稻用中期除草剤

クロアSM 粒剤

Bayer

日本バイエルアグロケム株式会社
東京都中央区日本橋本町2-7-1 ☎103

天然物で確実除草!

雑草を枯らし ハダニ類を密度抑制し

天然物だから

自然と調和して 確実除草!!

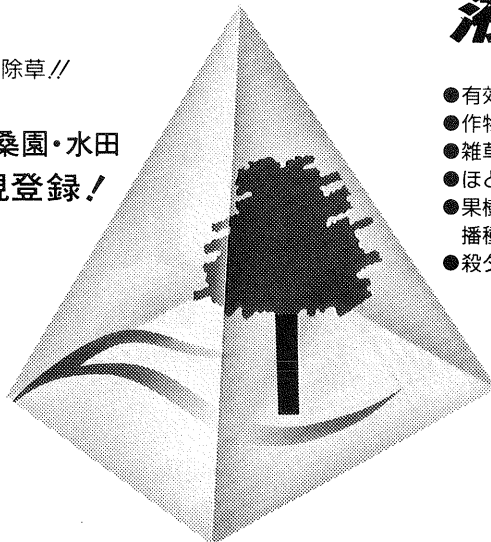
果樹園・野菜畑・桑園・水田

非農耕地に新規登録!

ハービー®

液剤

- 有効成分は天然物です。
- 作物・土壌など環境に安全です。
- 雑草を速く枯らし長く抑えます。
- ほとんどの雑草に有効です。
- 果樹等の根元まで散布でき、
播種、定植直前も使用できます。
- 殺ダニ効果があります。



有効成分

ピアラホス 18.0%

試験番号

MW-851



明治製薬株式会社
104 東京都中央区京橋2-4-16

関東・東山・東海地域における 水田雑草の発生状況と防除上の問題点

農業研究センター耕地利用部水田雑草研究室長 芝山秀次郎

1. 水稻栽培の動向

本地域の水稻作は、大部分が稚苗及び中苗移植栽培であり安定している。乳苗移植については、各県ともに水稻作付面積の1%以下と少な

いが今後は少しずつ増えていきそうである。また直播栽培は、栃木、群馬、埼玉、静岡、岐阜、愛知等で乾田あるいは湛水直播がやや多いが、愛知の1.3%を除いていずれも水稻作付面積の

第1表 関東・東山・東海地域都県における地帯別の田植期

(平成3年)

県及び 地帯名	作付面積 割合	田 植 期		
		始 期	最盛期	終 期
茨 城	100.0%	4.30 月 日	5. 6 月 日	5.25 月 日
北 部	27.8	5. 1	5. 8	5.22
鹿 行	9.7	4.26	5. 4	5.25
南 部	34.2	4.30	5. 4	5.11
西 部	28.3	4.29	5. 5	6.14
栃 木	100.0	4.29	5.13	6.17
北 部	39.3	4.28	5. 5	5.13
中 部	37.3	4.30	5.11	6. 8
南 部	23.4	5.13	6.10	6.21
群 馬	100.0	6. 2	6.16	6.23
中 毛	40.1	6. 9	6.21	6.25
北 毛	9.6	5.15	5.24	6. 5
東 毛	50.2	5.31	6.16	6.25
埼 玉	100.0	5. 3	6. 4	6.23
平坦南部	48.0	5. 2	5.14	6.22
平坦北部	51.1	5. 7	6.13	6.24
山 間	0.9	6. 1	6.12	6.28
千 葉	100.0	4.25	5. 1	5.12
京 葉	23.1	4.24	4.30	5.11
東下総	31.6	4.27	5. 2	5.12
九十九里	32.6	4.26	5. 2	5.12
外 房	12.8	4.19	4.29	5.10
東 京	100.0	5.29	6.11	6.24
神 奈 川	100.0	5.28	6. 5	6.17

県及び 地帯名	作付面積 割合	田 植 期		
		始 期	最盛期	終 期
山 梨	100.0%	5.13 月 日	5.27 月 日	6.17 月 日
国 中	85.8	5.13	5.27	6.19
郡 内	14.2	5.11	5.22	6. 3
長 野	100.0	5.12	5.20	5.30
東 信	22.4	5.17	5.24	6.11
南 信	28.0	5.10	5.19	5.27
中 信	30.8	5. 7	5.14	5.22
北 信	18.9	5.19	5.28	6. 5
岐 阜	100.0	5. 3	5.26	6. 8
西南濃	56.0	4.30	5.30	6.13
中 濃	18.3	5. 6	5.26	6. 5
東 濃	13.9	5. 1	5.12	6. 2
飛 騨	11.8	5.10	5.19	5.26
静 岡	100.0	5.11	6. 1	6.11
東 部	27.3	5.12	5.24	6. 5
中 部	22.7	5.27	6. 4	6.13
西 部	50.2	5. 3	6. 3	6.13
愛 知	100.0	5. 3	5.26	6.11
尾 張	47.2	5. 7	5.30	6.13
西三河	35.5	4.30	5.22	6. 7
東三河	17.1	4.24	5.20	6.10
三 重	100.0	4.22	5. 2	5.17
中北勢	68.1	4.21	5. 1	5.18
南 勢	16.1	4.18	4.29	5. 7
伊 賀	15.8	4.27	5. 5	5.19

(農林省資料)

1%以下と相変わらず少なく(平成3年), 稲作情勢や栽培技術に大きな変化が生じないかぎり今後ともに急速に増えることはないものとみられる。

水稻の作期は, 4月下～5月上旬植の三重, 千葉の早期栽培から6月中～下旬植の群馬, 埼玉の普通期まで種々である(第1表)。しかし各県の早期, 早植, 普通期, 晩植等の区分は, 必ずしも地域内の各県に共通の移植あるいは収穫時期を示すわけではなく, 県により若干異なっている。作付けされる水稻の品種は早期栽培を中心にコシヒカリが多く, その他にキヌヒカリ, 朝の光, 月の光, 初星, 黄金晴, 日本晴などの多数の品種が作られている。水稻の収量は, 平成4年の10アール当りの値で関東が441～504kg(東京は除く), 山梨, 長野が500, 584kg, 東海が462～506kgであり, 作況指数は103

～109と高いが, 収量水準として全国平均値の504kgを越える県は長野(584kg)及び静岡(506kg)の2県のみである。

2. 水田における雑草の発生状況

1) 種類別発生状況

本地域の水田における発生草種は, 関東・東山地域のデータからみるとノビエ, コナギ等の一年生雑草, マツバイ, ホタルイ類, ウリカワ, オモダカ, ミズガヤツリ等の多年生雑草が広域的にみられ, ヘラオモダカ, クログワイ, ヒルムシロ, セリ等は, やや局在して繁茂しているといえる。年次的にみた場合は, 全体的な状況としてはノビエは高位安定, コナギ, ホタルイ類, ウリカワ, ミズガヤツリ, オモダカ, クログワイやセリは, 増減はあってもほぼ同様傾向で, 多いところにはかなりの発生があるが発生

第2表-1. 関東・東山地域における水田雑草の発生面積

(%) (平成元年)

県名	水稻作付面積(ha)	ノビエ	コナギ	キカシ グサ	タマガ ヤツリ	その他	マツ バイ	ホタル イ類	ウリ カワ	オモ ダカ	ミズガ ヤツリ	クロ グワイ	セリ	表層 剥離
茨城	88,700	32	15	—	6	10	10	20	26	14	8	11	3	—
栃木	77,400	92	10	9	—	—	16	47	16	12	5	—	2	—
群馬	22,900	78	29	58	58	73	7	9	2	4	3	3	2	2
埼玉	43,900	68	47	9	23	25	11	41	56	25	14	25	7	16
千葉	70,500	62	21	—	—	—	28	35	31	29	29	12	20	—
東京	455	70	65	14	58	46	40	21	34	13	24	6	3	—
神奈川	4,450	92	45	27	34	76	15	23	16	—	25	14	—	—
小計	308,305	64	21	8	10	13	16	32	27	17	13	10	8	2
山梨	7,210	89	22	16	25	—	25	33	7	52	17	28	13	—
長野	47,000	77	19	12	—	4	12	63	17	52	12	18	11	—
小計	54,210	79	20	13	3	3	14	59	16	52	13	19	11	—
岐阜	35,700	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡	22,600	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛知	40,300	39	—	—	—	—	—	27	28	12	15	11	2	—
三重	41,500	92	69	—	33	73	—	30	56	1	21	7	34	—
小計	140,100	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注) 千葉, 愛知, 三重の欄は, 昭和63年の数値

(「雑草とその防除」より作成)

第2表-2. 関東・東山地域における水田雑草の発生面積率

(%) (平成3年)

県 名	水稲作付 面積(ha)	ノビエ	コナギ	キカシ グサ	タマガ ヤツリ	その他	マツ バイ	ホタル イ類	ウリ カワ	オモ ダカ	ミズガ ヤツリ	クロ グワイ	セリ	表層 剥離
茨城	88,700	24	11	—	6	7	8	18	23	11	7	10	2	—
栃木	77,400	90	9	9	—	—	13	52	16	14	5	—	2	—
群馬	21,800	74	23	50	45	61	51	7	2	3	2	3	2	3
埼玉	42,600	70	50	9	23	28	11	40	56	28	12	27	7	18
千葉	70,500	64	21	—	—	—	25	37	33	28	29	12	21	—
東京	419	69	64	13	57	36	39	21	33	14	24	5	2	—
神奈川	4,230	87	40	21	26	78	15	21	15	5	24	11	35	—
小 計	305,649	61	20	15	9	12	17	33	27	18	12	10	8	3
山梨	6,890	82	20	13	22	—	21	31	6	50	14	27	13	—
長野	46,140	82	22	20	—	—	12	57	17	53	12	22	15	—
小 計	53,030	82	22	13	3	3	13	53	16	48	12	22	15	—

注) 千葉は平成2年度の数値

(「雑草とその防除」より作成)

長野のキカシグサはその他も含む

第3表 関東・東山・東海地域の水田における主要発生雑草と問題雑草

(●印)

〔一年生雑草〕

(イネ科)

ノビエ類

- タイヌビエ
- ヒメタイヌビエ
- イヌビエ
- アゼガヤ

(広 葉)

- コナギ
- アゼナ
- アメリカアゼナ
- アブノメ
- チョウジタデ
- ミゾハコベ
- アメリカセンダングサ
- タカサブロウ
- タウコギ
- キクモ
- キカシグサ
- ヒメミソハギ
- クサネム

(カヤツリグサ科)

- タマガヤツリ
- コゴメガヤツリ
- ヒデリコ

〔多年生雑草〕

(イネ科)

- キシュウスズメノヒエ
- チクゴスズメノヒエ
- エゾノサヤヌカグサ

(広 葉)

- ウリカワ
- ヘラオモダカ
- オモダカ
- セリ
- ヒルムシロ
- デンジソウ

(カヤツリグサ科)

- マツバイ
- ホタルイ類
- イヌホタルイ
- タイワンヤマイ
- ミズガヤツリ
- クログワイ
- コウキヤガラ
- シズイ

(ウキクサ類, 緑藻類等)

- ウキクサ
- アオウキクサ
- アカウキクサ
- オオアカウキクサ
- アオミドロ
- アミミドロ
- サヤミドロ
- フシマダラ
- 表層剥離

の少ない県もあるといったバラツキがみられる（第2表－1；2）。この中の防除上の問題雑草を第3表に示した。

2) 発生活消長と葉数の増加

本地域における田植後の雑草発生の時期、発生後の葉令進展の日数等を、水稻の栽培時期別にみたものが、つぎの第4表である。

この表のごとく、草種によって発生時期がやや異なり、また発生後の葉令の進展速度も異なっている。水稻の作期については、同一作期でも年々の気象条件によって発生、生育時期の変動は大きい、やはり田植期が遅いほど田植後の雑草の発生は早まる。地域内の田植期の気温の代表例として4月末が田植期の千葉、5月中旬植の長野、6月中旬植の群馬について田植期の気温を平年値でみると、千葉では、この時期は最高気温が20～22℃、最低気温が12～15℃で

あるが、過去30年間の極値をみると、最高気温が28～30℃、最低気温が7～8℃といった値が時々あり、長野では、5月中～下旬は最高気温が22～24℃、最低気温が10～12℃であるが、極値は、最高気温が31～32℃、最低気温が0～5℃といった値があり、群馬では、6月中～下旬は最高気温が26～27℃、最低気温が17～20℃であるが、極値は、最高気温が35～36℃、最低気温が6～8℃といった値となっており、これら気象条件の変動によって雑草の発生活消長は大きく影響をうける（第1表参照）。また除草剤の使用面からみると、雑草の発生活消長の変動によって散布除草剤の効果のフレが生じやすいと同時に、除草剤の作用性との関連では、移植後の急激な高温あるいは低温の両面から、水稻への薬害助長要因として注意が必要である。

第4表 関東・東山・東海地域の水田における雑草の発生活消長

（田植後のおおよその日数：植代は田植前4日頃に実施した場合）

水稻作期	雑草発生と葉令	ノビエ類	広葉	マツバイ	ウリカワ	ホタルイ類	ミズガヤツリ
		日	日	日	日	日	日
早 期	発生 始め	+ 3～5	+ 5～8	+ 5	+ 5～7	+ 3～5	+ 3～5
	1.0 葉 期	+ 6～8	+ 10～12		+ 10～12	+ 8～10	+ 6～8
	1.5 葉 期	+ 8～12					
	2.0 葉 期	+ 12～16	+ 12～16		+ 12～15	+ 12～15	+ 8～12
	2.5 葉 期	+ 16～20					
	3.0 葉 期	+ 20～	+ 17～		+ 16～	+ 16～	+ 13～
早 植 中山間等	発生 始め	+ 3	+ 5	+ 5	+ 5～7	+ 3～5	+ 3～5
	1.0 葉 期	+ 5～6	+ 6～8		+ 8～10	+ 6～8	+ 6～8
	1.5 葉 期	+ 6～8					
	2.0 葉 期	+ 9～12	+ 10～14		+ 11～14	+ 8～10	+ 8～10
	2.5 葉 期	+ 12～15					
	3.0 葉 期	+ 15～	+ 15～		+ 15～18	+ 11～14	+ 12～15
普 通 期 平 坦 部	発生 始め	+ 3	+ 5	+ 5	+ 5～6	+ 3	+ 3
	1.0 葉 期	+ 5	+ 5～7		+ 6～8	+ 5	+ 5
	1.5 葉 期	+ 6～7					
	2.0 葉 期	+ 8～10	+ 10～12		+ 9～12	+ 8～10	+ 8～10
	2.5 葉 期	+ 10～12					
	3.0 葉 期	+ 12～15	+ 12～16		+ 13～16	+ 10～12	+ 10～13

（日本植物調節剤研究協会適II試験資料より作成）

3. 除草剤の使用動向

本地域でも水稻作用除草剤は急激に変わってきており、近年はとくに初・中期一発処理剤の伸びが著しい。一発剤のみについてみると、水

稲作付面積対比でみて初期と初・中期の一発剤の使用面積率は、関東・東山地域は平成2年がそれぞれ40%, 31%, 平成3年が39%, 35%で、平成4年は37%, 42%と逆転して初・中期一発

第5表 関東・東山地域における主要水田除草剤の使用面積率

(水稻作付面積対比: %) (平成3年)

都 県 名	茨 城	栃 木	群 馬	埼 玉	千 葉	東 京	神奈川	山 梨	長 野
水稻作付面積(ha)	88,700	77,400	21,800	42,600	70,400	419	4,230	6,890	46,140
初 期 剤									
ロンスター	6	—	5	19	2	1	2	12	3
デルカット	6	—	1	6	17	—	0	18	23
エックスゴーニ	3	6	3	7	1	3	1	10	4
MO	3	7	7	13	3	18	20	0	7
ショウロンM	5	9	—	0	19	—	6	—	18
モーダウン	2	2	1	—	0	14	—	8	2
ソルネット	2	8	3	0	2	—	25	2	4
マーシェット	—	5	2	5	2	—	4	2	1
サターンM	—	—	6	—	—	—	8	—	—
初 期 一 発 剤									
クサカリン	4	10	25	14	3	—	4	8	0
ワンオール	5	7	2	11	1	1	0	—	3
クサホープD	2	—	1	3	0	—	2	—	0
オーザ	—	0	1	2	—	—	0	1	0
ウルフ	—	—	9	4	—	20	34	—	—
ウルフエース	12	17	—	12	18	7	8	16	23
プッシュ	0	—	—	0	7	—	—	9	0
ゴルボ	9	2	2	8	3	—	1	1	3
初・中期 一 発 剤									
ザーク	0	12	—	0	—	—	1	2	16
ザークD	10	—	19	43	20	—	—	—	—
フジガラス	4	—	—	6	5	—	1	7	3
アクト	17	—	4	7	9	—	3	—	4
シンザン	5	2	—	0	0	—	0	—	6
中 期 剤									
マメット	—	—	—	—	0	6	1	—	—
マメットSM	10	17	2	7	20	1	4	14	5
サターンS	2	6	2	7	0	—	8	—	5
クミリードSM	1	11	2	3	3	—	14	0	27
セスロン	3	2	0	—	0	0	1	—	1
グラキール	1	—	—	0	1	—	—	—	—
ダイセックSM	3	—	—	—	0	—	—	—	0
アビロサン	—	1	0	0	0	6	1	4	0
クロアSM	—	—	—	2	0	—	—	—	—
バサグラン(粒)	1	1	—	1	1	—	1	0	1
後 期 剤									
グラスジンM(粒)	—	0	—	0	1	—	2	0	—
グラスジンM(水)	—	—	—	0	—	—	0	0	4
モゲトン	—	—	3	3	5	22	5	6	1
2,4-D(粒)	—	—	4	1	1	3	1	1	—
MCP(粒)	—	3	—	1	0	—	—	0	8
その他	4	—	4	—	—	—	—	—	2

(「雑草とその防除」より作成)

剤が多くなっており、また東海地域は平成2年がそれぞれ58%、26%、平成3年が59%、25%、平成4年が59%、29%と初期一発剤が圧倒的に多い。そして初・中期一発剤の中では、ザークD粒剤のほか、フジガラス粒剤とアクト粒剤が多く、初期一発剤では、ウルフエース粒剤、それについてクサカリン粒剤が多い。その他の一発剤、初期剤、中期剤等については、シーゼットフロアブル剤等のごとく増加傾向にある薬剤のほか、漸減傾向の中にはあっても案外根強く使われているものが多い(第5表)。しかし一発処理除草剤については、各薬剤ともに似たような有効成分を混合剤として含む作用性が似ている場合も多く、各県からは類似除草剤が多くて選択に困るという苦情が聞かれるほどであり、各剤の特徴をもっと明確にする必要がある。

4. 水田における雑草防除上の問題点

今後の関東・東山・東海地域の水稲作雑草防除技術は、地域性として大都市近郊の性格が強い。最近論議の中にある米輸入の関税化、部分輸入の問題や米価の動向などの情勢により種々影響を受けやすく、水稲栽培技術の省力化、低コスト化の進展やより一層の兼業化による農家の水稲生産意欲の低下などによって、水田雑草対策についても防除管理の粗放化の懸念が生じている。

現在は除草剤の作用性としては有効な薬剤が多数実用化されており、難防除雑草など一部残存する草種があっても、2、3種類の有効除草剤を体系的に繰り返し使用すればかなり雑草の生育を抑制し得る。しかし最近では、有効な除草剤があっても使い方が適切でないために不十分な効果しかあげず、また残草を防除するための薬剤散布や手取り除草をする人手がない、ある

いは薬剤や人件費のコストがかかりすぎるなど、除草剤の作用性の限界を越えたところに雑草防除上の問題が生じているようにも思われる。さらに除草剤の大量使用する場合は、環境への影響も考慮する必要がある。こうした状況において今後の除草剤には、農家による水稲栽培管理、雑草防除の実態の中で有効性を発揮するような成分開発、混合組合せ、製剤形態、散布手段などが求められるといえる。

現在の水田雑草防除は、一発処理除草剤の使用を中心に行われているが、その中でそれらの除草剤の作用特性の得失もおおよそ明らかになってきたようである。そこでそういった実態をふまえて、水田用除草剤における今後望まれる技術改良の方向について私見をのべてみたい。

1) 適用草種等に特色をもった一発処理除草剤の開発: 一発処理除草剤は多数の優れたものが開発されているが、それらは類似の有効成分の混合剤である場合が多く、実際の適用場面ではあまり特徴がみられなくなっている。しかし個々の水田では特定の草種が残存して問題となることも多く、今後は一発処理剤にも若干の特徴をもたせ、それぞれが得意とする有効な草種をもつ剤としていったほうが、かえって実用上は喜ばれるのではなかろうか。

2) 水田の栽培管理の粗放化が懸念されているが、水管理等が多少不十分でも効力を発揮し得るような新薬剤の開発(初期剤、一発剤、後期剤): 近年の水稲作では、水管理等の粗放化により除草剤の効果が低下する傾向がみられる。一方ではこれら基本技術の必要性は理解していてもつい手を抜いてしまうのが水稲作農家の現状であり、今後はそうした農家の実態に合わせた除草法や、新しい作用特性をもつ薬剤開発が求められる。

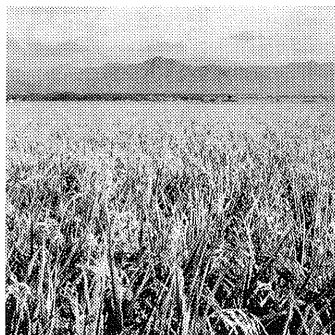
3) 特定の難防除雑草への特効薬剤の開発(中期剤, 後期剤): 難防除多年生雑草対象の除草体系についてみると, クログワイをはじめとする多年生雑草対策についてはある程度有効な薬剤が開発され, それらによる体系防除法が確立されているが, 一方ではそれらにより難防除雑草の分布が減少するまでには至っていない。このことは良い薬剤があっても, 価格, 散布労働や時間等の面からみて実用的な除草体系として農家が実行しにくい技術であるためと思われる。特殊雑草を対象として, 新しい特性をもった除草剤の開発が待たれる。

4) 大区画水田あるいは一般の水田を含めて, 軽作業労働で散布可能な剤型, 散布法の開発: 散布労働を軽減化しうるような薬剤成分, 剤型や散布機具の開発が, 今後は重要になると考え

る。肉体的に楽な除草剤散布法, 散布重量の軽減化, 水田内に入らず汚れずに済む手段, あるいはこういった除草法に適用し得る薬剤成分や剤型の除草剤が, 農家に歓迎されよう。

5) 畦畔雑草の生育抑制あるいは防除薬剤の開発: とくに本地域では, 近年農家の人手不足は深刻化しており, 畦畔雑草の管理が労力的に間に合わない状況となっている。少ない管理の手間でできるだけ長期間雑草の発生や繁茂を抑制しうるような薬剤あるいは管理手段の開発が必要である。

6) 環境への悪影響のない薬剤の開発: これは今後の水田雑草防除技術の基本であり, 除草剤については, 残効は継続してもあまり土壌残留性の長くないもの, 水域へ流失しにくいもの等が望ましい。



ホクコーの主要除草剤

●初期一発処理剤

プッシュ® 粒剤
スラッシュ® 粒剤

●初期除草剤

モーダウジ® 粒剤

●中期除草剤

セスロン® 粒剤
バサゲラン® 粒剤・液剤
(ナトリウム塩)

●果樹・畑作・その他除草剤

ポラリス® 液剤
ハービー® 液剤

●畑作用除草剤

クレマート® 乳剤
U粒剤

農薬会社は、日本農業の発展を願い、安全で効果の高い農薬を^{つく}りおとけしています。

JAグループ

農協|経済連| **全農**



北興化学工業株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本石町4-4-20

Hoechst

**速くて、
しっかり**
ダブル
W効果の除草剤

- 速く効く、長く効くバスタ
- 人、作物、土、環境に優しいバスタ
- なんでも枯らすバスタ ●使いやすいバスタ

バスタ 液剤 ®

© ドイツ・ヘキスト社の登録商標

バスタ普及会 石原産業／日本農薬／日産化学
 〈事務局〉ヘキストジャパン株式会社 〒107 東京都港区赤坂8-10-16 ☎03(3479)4382

資料請求券

一発前の経済派

MO普及会
 クミアイ化学工業株・三共株・
 北興化学工業株・八洲化学工業株・
 日本農薬株・サンケイ化学株
 〈事務局〉三井東圧化学株式会社

水田初期除草剤

MO粒剤-9

絶妙のバトンタッチ

■稲に安全、低温にも安心。 ■25年間、親しまれた実績。

■低コスト除草剤。 ■一発剤散布までに一年生雑草を抑えます。

平成4年度水稲作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成4年度水稲作関係除草剤試験成績中央検討会は、平成4年12月9～10日の2日間、植調会館会議室において開催された。なお、ジャンボ剤試験成績中央検討会は、平成4年10月8日植調会館会議室にて開催された。また、適1試験は、平成4年10月9日植調会館にて開催された。これらの成果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験(適1)成績について

平成4年度の適1試験は、北海道地域(植調北海道試験地)、東北地域(植調古川試験地)、北陸地域(植調新潟第1試験地)、関東地域(植調研究所)、近畿地域(植調滋賀試験地)、中国地域(植調広島試験地)、九州地域(植調佐賀試験地)の全国7地域で43薬剤(のべ230点)について実施した。その判定結果は、第1表のとおりである。

2) 第2次適用性試験(適2)成績について

平成4年度の適2試験は、次のような試験区分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前土壌混和处理(Ⅱ-1, 8剤91点)、移植前後土壌処理(Ⅱ-2, 8剤86点)、移植後土壌処理(Ⅱ-3, 2剤43点)、茎葉兼土壌処理(Ⅱ-4, 4剤34点)、適用時期拡大(Ⅱ-5,

6剤54点)、特殊雑草防除(Ⅱ-6, のべ35剤114点)、湛水直播栽培用(Ⅲ-1, 5剤37点)、乾田直播栽培用(Ⅲ-2, 3剤9点)、畦畔雑草用(Ⅳ, 9剤55点)、耕起前雑草用(Ⅴ, 3剤16点)、初期一発処理剤(Ⅶ-1, 35剤297点)、初・中期一発処理剤(Ⅶ-2, 36剤365点)、長期持続型一発処理剤(Ⅶ-3-1), 9剤53点)、一年生持続型除草剤(Ⅶ-3-2), 2剤28点)、少量散布(Ⅷ, 2剤6点)の総のべ点数が1,288点であった。これら適2試験の判定結果は第2表、使用基準は第3表のとおりである。

3) ジャンボ剤適用性試験成績について

平成4年度の適用性試験は、次のような試験区分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前後土壌処理(Ⅱ-2, 5剤87点)、移植後土壌処理(Ⅱ-3, 3剤47点)、適用時期拡大(Ⅱ-5, 1剤22点)、初期一発処理剤(Ⅶ-1, 23剤341点)、初・中期一発処理剤(Ⅶ-2, 15剤231点)の総のべ点数が728点であった。これら適用性試験の判定結果は第3表、使用基準は第5表のとおりである。

第1表 平成4年度水稻作関係除草剤適1試験成績判定結果一覧表

No	薬 剤 名・剤 型 〔委託者名〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔今後の課題点等〕
			北海道	古川	新潟1	植調研	滋賀	広島	佐賀	
1	AC-014A 粒 〔日本サイアナミッド〕	新規 0.2 既知 1.5	○	◎	○	○	○	□	□	寒地～温暖地東部○, ノビエ1.5Lまで(初期一発処理剤)
2	AC-014B-1kg 粒 〔日本サイアナミッド〕	未公開	○	◎	○	○	○	○	○	全域○, ノビエ2Lまで(初期一発処理剤)
3	AC-014C 粒 〔日本サイアナミッド〕	新規 0.2 既知 1.0 既知 2.0	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	全域○, ノビエ2Lまで(初期一発処理剤)
4	AC-014D-1kg 粒 〔日本サイアナミッド〕	未公開 1.2	○	◎	○	○	○	□	△	寒地～温暖地東部○, ノビエ1.5Lまで(初期一発処理剤)
5	AC-014E-1kg 粒 〔日本サイアナミッド〕	新規 0.6 既知 21.0	○	◎	○	□	□	○	□	全国□, ノビエ2.5Lまで(初・中期一発処理剤) 〔効果〕
6	CGM-71 フロアブル 〔三菱油化〕	プレチラクロール 5.0 ベンゾフェナップ 20.0	□	◎	○	○	○	○	○	寒冷地以西○, ノビエ1Lまで (一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ, ミズガヤツリ)
7	CH-904 粒 〔中外製薬〕	CH-900 0.7 既知 0.25 新規 0.4 既知 1.5	◎	◎						寒地・寒冷地北部◎, ノビエ2.5Lまで(初・中期一発処理剤)
8	CH-940㊦ 粒 〔中外製薬〕	CH-900 0.7 既知 0.17 新規 0.4 既知 1.5			○	○	○	○	○	温暖地以西○, ノビエ2.5Lまで (初・中期一発処理剤)
9	CH-906 粒 〔中外製薬〕	CH-900 1.0 既知 0.25 既知 2.0	○	◎						寒地・寒冷地北部○, ノビエ2.5Lまで(初・中期一発処理剤)
10	CH-906㊦ 粒 〔中外製薬〕	CH-900 1.0 既知 0.17 既知 2.0			◎	○	◎	○	○	温暖地以西○, ノビエ2.5Lまで (初・中期一発処理剤)
11	CH-907 粒 〔中外製薬〕	CH-900 1.0 既知 0.3 既知 5.0	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	全域○, ノビエ2.5Lまで(初・中期一発処理剤)

No.	薬 剤 名・剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 〔 今 後 の 課 題 点 等 〕
			北 海 道	古 川	新 潟 1	植 調 研	滋 賀	広 島	佐 賀	
12	DEH-112 マイクロエマルジョン 〔ダウ・エランコ日本〕	DEH-112 3 (成分未公開)	□	△		□		□	○	全域□, ノビエ4.5 Lまで(ノビエに対する生育期処理剤) 〔混合母剤としての検討〕
13	DEH-BAS マイクロエマルジョン 〔ダウ・エランコ日本〕	DEH-112 3 BAS-3510(Na) 20	□	○		○		○	△	全域○, ノビエ4.5 Lまで(一年生雑草, 多年生雑草に対する生育期処理剤)
14	DPX-47CGD-1 kg 粒 〔ゴルフ普及会: 武田薬品〕	DPX-47 0.06 DPX-84 0.3 プレチラクロール 4.5 ジメタメトリン 0.6	○	◎	○	○	◎	○	○	全域○, ノビエ2 Lまで(初期一発処理剤)
15	DPX-47K-1 kg 粒 〔クミアイ化学〕	ベンチオカーブ 15.0 メフェナセット 4.5 ベンスルフロンメチル 0.3 DPX-47 0.06	○	◎				○	○	○, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤)
16	DPX-47K①-1 kg 粒 〔クミアイ化学〕	ベンチオカーブ 15.0 メフェナセット 3.0 ベンスルフロンメチル 0.3 DPX-47 0.06	○	◎				○	○	○, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤)
17	DPX-47MN-1 kg 粒 〔三菱油化〕	ジメピペレート 15.0 ベンスルフロンメチル 0.3 DPX-47 0.06 ペンフレセット 4.5	○	◎	◎	□	○	○	○	全域○, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤)
18	DPX-47TD-1 kg 粒 〔デュポン・ジャパン〕	DPX-47 0.06 ベンスルフロンメチル 0.3 メフェナセット 10 ダイムロン 4.5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	全域◎, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤)
19	DPX-47SC 粒 〔日本農薬〕	エスプロカルブ 7.0 ベンスルフロンメチル 0.1 DPX-47 0.02	○	◎	◎	□	○	◎	□	全域○, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤)
20	Hoe-404 粒 〔ヘキストジャパン〕	未公開 0.08	□		□	□		○	○	全域□, 一年生雑草, マツバイ, ホタルイ, ウリカワ 〔混合母剤としての検討〕

No.	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 (今 後 の 課 題 点 等)
			北 海 道	古 川	新 潟 1	植 調 研	滋 賀	広 島	佐 賀	
21	HOK-915D 粒 〔 北興化学 〕	ベンスルフロンメチル 0.25 ジメビペレート 5.0 ジチオピル 0.2	◎	◎						寒地・寒冷地北部◎, ノビエ2L まで(初期一発処理剤)
22	HOK-915D① 粒 〔 北興化学 〕	ベンスルフロンメチル 0.17 ジメビペレート 5.0 ジチオピル 0.2			○	○			□	寒冷地南部～温暖地○, ノビエ2 Lまで(初期一発処理剤) 〔 ノビエの効果(暖地) 〕
23	HOK-922 粒 〔 北興化学 〕	未公開 計 5.07			○	○		○	□	寒冷地南部以西○, ノビエ1.5L まで(初期一発処理剤)
24	KUH-921-1kg 粒 〔 クミアイ化学 〕	新規 0.3 ベンスルフロンメチル 0.3 DPX-47 0.06	□	◎		○		○	□	全域○, ノビエ3Lまで(初・中 期一発処理剤) 〔 効果 〕
25	KUH-922-1kg 粒 〔 クミアイ化学 〕	新規 0.3 新規 0.6	□	◎	○	○	○	○	△	全域○, ノビエ3Lまで(初・中 期一発処理剤) 〔 効果・葉害 〕
26	KUH-926①-1kg 粒 〔 クミアイ化学 〕	新規 0.3 ベンスルフロンメチル 0.75	□	◎						□, ノビエ3Lまで(初・中期一 発処理剤) 〔 効果 〕
27	KUH-926-1kg 粒 〔 クミアイ化学 〕	新規 0.3 ベンスルフロンメチル 0.5	□	◎	○	○	○	○	△	全域○, ノビエ3Lまで(初・中 期一発処理剤) 〔 効果 〕
28	MK-243 粒 〔 三菱化成 〕	未公開(新規) 0.5	□	◎	○	□	△	□	△	全域□, ノビエ2.5Lまで 〔 混合母剤としての検討 〕
29	MK-243D 粒 〔 三菱化成 〕	未公開(2種) 0.75	□	◎						寒地, 寒冷地北部○, ノビエ2.5 Lまで(初・中期一発処理剤)
30	MK-243D① 粒 〔 三菱化成 〕	未公開(2種) 0.67			○	○	□	○	○	寒冷地南部以西○, ノビエ2.5L まで(初・中期一発処理剤)
31	MK-243T 粒 〔 三菱化成 〕	未公開(2種) 0.8	○	◎	○	○	○	○	○	全域○, ノビエ2.5Lまで(初・ 中期一発処理剤)
32	MT-145-1kg 粒 〔 三井東圧化学 〕	未公開(新規) 3	○	○		□			△	□ 〔 混合母剤としての検討 〕
33	MT-146-1kg 粒 〔 三井東圧化学 〕	未公開(新規) 2	○	○		□			△	□ 〔 混合母剤としての検討 〕

No.	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔 委 託 者 名 〕	有効成分および 含有率 (%)	試験実施場所別総合評価							中 央 判 定 結 果 (今 後 の 課 題 点 等)
			北 海 道	古 川	新潟 1	植 調 研	滋 賀	広 島	佐 賀	
34	MT-245-1 kg 粒 〔 三井東圧化学 〕	未公開 新規 (MT-145) 3 既知 9	○	○		○			△	温暖地以北○, ノビエ1 Lまで (一年生雑草, マツバイ, ホタル イ)
35	NC-311DCG 粒 〔 日産化学 〕	ピラゾスルフロンエチル 0.07 DEH-112 0.6 プレチラクロール 1.5	□	◎	○	□	○	□	△	全域○, ノビエ3 Lまで (初・中 期一発処理剤) 〔 ノビエに対する効果 〕
36	NC-311KS-1 kg 粒 〔 日産化学 〕	未公開 9.21 (既知3種混合)	◎	◎	◎	○	○	□	△	全域○, ノビエ1.5 Lまで (初期 一発処理剤) 〔 効果の確認 (暖地) 〕
37	NC-339 粒 〔 日産化学 〕	未公開 0.57	△	○	○	○	□	○	○	寒冷地以西○, ノビエ2.5 Lまで (初・中期一発処理剤)
38	NSK-860 粒 〔 徳山曹達 〕	未公開 1.55	□	◎						寒地・寒冷地北部○, ノビエ3 L まで (初・中期一発処理剤)
39	NSK-860① 粒 〔 徳山曹達 〕	未公開 1.47			◎	□	○	○	○	寒冷地南部以西○, ノビエ3 Lま で (初・中期一発処理剤)
40	TH-913ADE-1 kg 粒 〔 武田薬品 〕	イマズスルフロン 0.9 DEH-112 1.8 プレチラクロール 4.5 ジメタメトリン 0.6	△	◎	○	○	□	○	○	寒冷地以西○, ノビエ3 Lまで (初・中期一発処理剤)
41	TH-913SN 粒 〔 武田薬品 〕	イマズスルフロン (TH -913) 0.3 メフェナセット 3.5 ダイムロン 5.0	○	◎	◎	◎	○	◎	○	全域◎, ノビエ2.5 Lまで (初・ 中期一発処理剤)
42	TH-913HSK-1 kg 粒 〔 武田薬品 〕	イマズスルフロン 0.9 HW-52 15.0 ダイムロン 15.0	○	◎	○	○	○	◎	○	全域○, ノビエ2 Lまで (初期一 発処理剤)
43	SW-921 粒 〔 三共 〕	未公開 (5種) 8.2		◎			◎	○	○	○, ノビエ2 Lまで (初期一発処 理剤)

注) 判定欄の記号については, ◎; 極めて有望, ○; 有望, □; 可能性あり, △; 再検討, ×; 見込なし, を表わす。

第2表 平成4年度水稻作関係除草剤適2試験成績判定結果一覧表

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
II-1. 移植前土壌混和 処理			CG-113乳, CGM-71フロアブ ル, CGS-88乳, HOK-913乳, KPP-314フロアブル, KPP- 2005フロアブル, RPC-208			

判定 区分	実	実・継	継	継?	中止
II-1. 移植前土壌混和 処理(つづき)		乳, TCG-128乳.			
II-2. 移植前後土壌処 理		CG-113-1kg粒, CGM-71 フロアブル, KPP-314粒, KPP-314フロアブル, KPP- 2005フロアブル, MO-338- 1kg粒, MTS-1フロアブル, MTS-1-1kg粒.			
II-3. 移植後土壌処理		TSR-121フロアブル.	Y-873-1kg粒.		
II-4. 茎葉兼土壌処理		モリネットSM-1kg粒.	DEH-112粒, DEH-112-1 kg粒, DEH・BASマイクロエマ ルジョン.		
II-5. 適用時期拡大		NC-311NS粒, NS-177粒, TH-913⑩粒, モリネットSM -1kg粒.	DEH-112マイクロエマルジョ ン, DEH・BASマイクロエマル ジョン.		
II-6-(1) クログワイ 対象		DM-72粒, DPX-84MN粒, NC-326粒, <u>NSK-855フロア ブル.</u> (但し, 連年施用については継続 検討) DPX-84MN⑩粒, JC-940粒, KUH-883粒, KUH-883⑩粒, NC-311NS粒, NC-311SC ⑩粒, NC-329粒, NJM-754 粒, NS-177粒, SKH-8602 ⑩粒. (連年施用についても「実・継」) NS-112粒, TH-913⑩粒. (連年施用についても徹底防除に 用いる剤として「実・継」)	NC-326⑩粒, NSK-855⑩フ ロアブル.		
II-6-(2) オモダカ対 象		NC-326粒, NSK-855フロア ブル, <u>NSK-855⑩フロアブル.</u> (但し, 連年施用については継続 検討) KUH-883⑩粒, NC-311SC ⑩粒, NC-329粒, NS-177 粒, SKH-8602⑩粒. (連年施用についても「実・継」)	NC-326⑩粒.		
II-6-(5) シズイ対象		JC-940粒, NC-311R粒.			
II-6-(6) エゾノサヤ ヌカグサ対 象		DPX-84MN粒, <u>NC-311HW 粒.</u>			
II-6-(7) クサネム対 象		BAS-3510(Na)⑩液.	BAS-3510(Na)粒.		
II-6-(8) コウキヤガ ラ対象		NC-311CG⑩粒, NC-311S C⑩粒.			

区 分 判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
Ⅲ-1. 湛水直播		KUH-883㊦粒, NC-311HW粒, NC-311HW-1kg粒, NC-311SC㊦粒, TH-913HSK-1kg粒.			
Ⅲ-2. 乾田直播		KUH-883㊦粒, KUH-914乳.	KUH-911液, KUH-911Aフロアブル		
Ⅳ 畦畔雑草		Hoe-86610液, Hoe-866-3H水和, HSW-9106液, Mon-6069水溶, MR-29水溶, MW-851液, ULV-03液.	KUH-913液, SUM-302顆粒性水和.		
V 耕起前雑草		Hoe-866液, Hoe-86610液.	SUM-302顆粒性水和.		
Ⅶ-1. 初期一発処理剤		DPX-84CG-1kg粒, DPX-84CG㊦-1kg粒, DPX-84M粒, DPX-84M㊦粒, KUH-883粒, KUH-883-1kg粒, KUH-883㊦粒, KUH-883㊦-1kg粒, NC-311CG粒, NC-311CG-1kg粒, NC-311CG㊦粒, NC-311CG㊦-1kg粒, NC-311HW粒, NC-311HW-1kg粒, NSK-855フロアブル, NSK-855㊦フロアブル, SKH-8602㊦粒, SL-498㊦-1kg粒, SL-498-1kg粒, SL-970フロアブル, SW-907粒, TDS-888フロアブル, TDS-888㊦フロアブル, TH-913ADS㊦粒, TH-913HSK-1kg粒, TH-913STフロアブル, TSM-612フロアブル.	DPX-47CGD-1kg粒, DPX-47K-1kg粒, DPX-47K㊦-1kg粒, SW-921粒.		
Ⅶ-2. 初・中期一発処理剤		DPX-84MN粒, DPX-84MN㊦粒, DPX-84SC-1kg粒, DPX-84SC㊦-1kg粒, DPX-84T粒, DPX-84T-1kg粒, DPX-84TD㊦-1kg粒, KUH-883粒, NC-311SC㊦粒, NC-311SC㊦-1kg粒, NC-311T粒, NC-311T-1kg粒, NC-326㊦粒, NC-329粒, NC-329-1kg粒, TH-913SN粒, TH-913SSC粒.	CH-904粒, CH-904㊦粒, CH-906粒, CH-906㊦粒, CH-907粒, DJL-367-1kg粒, DPX-47K-1kg粒, DPX-47K㊦-1kg粒, DPX-47SC粒, DPX-47TD-1kg粒, NC-311DCG粒, NC-311DCD粒, NC-343粒, NC-344粒, NC-345粒, NCH-903粒, NSK-860粒, NSK-860㊦粒, TH-913ADE-1kg粒.		
Ⅶ-3-(1) 長期持続型一発処理剤		DM-72粒, DPX-84T粒, DPX-84TD㊦粒, NC-311T粒, NC-326粒.	KUH-921-1kg粒, KUH-922-1kg粒, KUH-926㊦-1kg粒, KUH-926-1kg粒.		
Ⅶ-3-(2) 一年生持続型除草剤		CG-187粒.	CH-902粒.		
Ⅷ-1. 少量散布法		KUH-883粒.			
Ⅷ-2. 少量散布		CG-113粒.			

注: 1) 本年度新規に使用基準の作成されたものは、薬剤名はアンダーラインを記した。

2) 本年度は「継?」および「中止」と判定された薬剤はなかった。

第3表 平成4年度水稻作除草剤ジャンボ剤適用性試験成績判定結果一覧表

区 分	判定	実	実・継	継	継?	中止
II-2.	移植前後土壌処理		CG-200ジャンボ, MO-338ジャンボ, MTS-1ジャンボ.	CG-199ジャンボ, KPP-2005ジャンボ.		
II-3.	移植後土壌処理		AKD-7036ジャンボ.	Y-873ジャンボ, プロメトリンパック.		
II-5.	茎葉兼土壌処理		モリネートSMジャンボ.			
VII-1.	初期一発処理剤		DPX-84CGジャンボ, DPX-84CG㊦ジャンボ, DPX-84Mジャンボ, DPX-84M㊦ジャンボ, KUH-883ジャンボ, KUH-883㊦ジャンボ, NC-311Cジャンボ, NC-311C㊦ジャンボ, NC-311CG㊦ジャンボ, NSK-850Dジャンボ, NSK-850D㊦ジャンボ, SL-496ジャンボ, SL-496㊦ジャンボ, SL-498㊦ジャンボ, SL-498ジャンボ, SW-918㊦ジャンボ, SW-918ジャンボ.	HOK-915Dジャンボ, HOK-915D㊦ジャンボ, KUH-891ジャンボ, KUH-891㊦ジャンボ, NC-311SSジャンボ, SL-500ジャンボ, TH-913ADS㊦ジャンボ.		
VII-2.	初・中期一発処理剤		DPX-84SCジャンボ, DPX-84SC㊦ジャンボ, DPX-84Tジャンボ, DPX-84TD㊦ジャンボ, NC-311Rジャンボ, NC-311SC㊦ジャンボ, NC-311Tジャンボ.	NC-326㊦ジャンボ, NSK-860-Aジャンボ, NSK-860-Bジャンボ, NSK-860㊦-Aジャンボ, NSK-860㊦-Bジャンボ.		

注: 1) 本年度新規に使用基準の作成されたものは、薬剤名はアンダーラインを記した。
 2) 本年度は「継?」および「中止」と判定された薬剤はなかった。

新刊

改訂 雑草学用語集

日本雑草学会／編集・発行
 B5判 234頁 定価7,210円(税込)

雑草を研究する上で必須の文献として高い評価を受けてきた旧版を大幅に改訂。雑草学研究に必要な用語はこれ1冊でこと足りるようという編集方針のもとに、第I編 学術用語編では現時点で必要な用語、解説用語を新たに選び直した。さらに第II編 雑草名編では新たに100種を追加し、第III編 除草剤名編では新たな薬剤も加え、わが国で登録されたことのある薬剤すべてを網羅した。

呈内容見本

全国農村教育協会

〒110 東京都台東区台東1-26-6(植調会館) 電話/03-3833-1821 FAX/03-3833-1665

第4表 平成4年度水稲関係除草剤使用基準一覧表

II-1 移植前土壌混和処理

Ⅱ-1 移植前土壌処理状況														処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マブイ	オホイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カウイ	モカ	ヒムシ	藻類表層剥離	植代時 (～4)	1.5		○	○	○	2	
Ⅱ-1 1.CG-113 乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○			○					30～50 ml/a	○	○	○	○	* 混和時の水深 3～5cm ** 混和深 2～3cm	
		東北		○	○	○			○						○	○	○			
		北陸		○	○	○			○						○	○	○			
		関東・東山・東海	早	○	○	○		○								●	○	○		○
			普	○	○	○		○								●	○	○		○
		近畿・中国	早	○	○	○		○									○	○		○
			普	○	○	○		○								●	○	○		○
		四国	早	○	○	○		○									○	○		○
			普	○	○	○		○								●	○	○		○
		九州	早	●	●	●		●							50 ml/a			●	●	
普	○		○	○												○	○			

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マブイ	オホイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カウイ	モカ	ヒムシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深 cm/d	使用上の注意		
Ⅱ-1 2.CGM-71 フロアブル	土壌混和処理	北海道		●	●	●	●		●					植代時 (~-4)	75ml/a	●	●	●	2	* 混和時の水深 3-5cm ** 混和深 2-3cm		
		東北		●	●	●	●									50ml/a			●		1	
		北陸		●	●	●	●	●									●	●	●		2	
		関東・東山・東海	早	●	●	●	●											●	●		●	
			普	●	●	●	●											●	●		●	
		近畿・中国	早																			
			普	●	●	●	●											●	●		●	1.5
		四国	早																			
			普	●	●	●	●											●	●		●	
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マブイ	オホイ	ウカ	ミカサ	ヘオサ	カウイ	サカ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意	
II-1 3. CGS-88乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○			○						植代時(〜4)	50〜75 ml/a	○	○	○	○	2	(4) 移植後の深さは避ける 混和時の水深 3〜5cm 混和深 2〜3cm
		東北		○	○	○		○	○								○	○	○			
		北陸		○	○	○		○	○								○	○	○			
		関東・東山・東海	早	○	○	○												○	○	○		
			普	○	○	○		○										○	○	○		
		近畿・中国	早	○	○	○		●										○	○	○	1	
			普	○	○	○		○									1	○	○	○	2	
		四国	早	○	○	○		●										○	○	○	1	
			普	○	○	○		○									1	○	○	○	2	
		九州	早	○	○	○		●										○	○	○	1	
			普	○	○	○		○									1	○	○	○	2	

II-1 つづき

	処理法	地域名	作期	バI	一年広葉マツバ	オクイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カクイ	ササ	ヒメシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-1 4. HOK-913 乳	土壌混和処理	北海道		●	●	●									播代時 (~4)	50 ml/a		●	●	●	2	混和時の水深 3-5cm
		東北		●	●	●													●	●	1	
		北陸		●	●	●											●	●	●	●	2	混和深 2-3cm
		関東・東山・東海	早																			
			普	●	●	●											●	●	●	●		
		近畿・中国	早																			1
			普	●	●	●												●	●	●		
		四国	早																			
			普	●	●	●												●	●	●		
		九州	早																			
			普	●	●	●													●	●		

	処理法	地域名	作期	バI	一年広葉マツバ	オクイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カクイ	ササ	ヒメシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-1 5. KPP-314 フロアフル	土壌混和処理	北海道													播代時 (~4)	50ml /a						混和時の水深 3-5cm
		東北		●	●														●	●	1.5	
		北陸		●	●												●	●	●	●	2	混和深 2-3cm
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	バI	一年広葉マツバ	オクイ	ウカ	ミカサ	ハラタ	カクイ	ササ	ヒメシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-1 6. KPP-2005 フロアフル	土壌混和処理	北海道		●	●	●									播代時 (~4)	100 ml/a		●	●	●	2	混和時の水深 3-5cm
		東北		●	●	●		●											●	●	1.5	
		北陸		●	●	●		●									●	●	●	●	2	混和深 2-3cm
		関東・東山・東海	早																			
			普	●	●	●		●									●	●	●	●		
		近畿・中国	早																			1
			普	●	●	●		●										●	●	●		
		四国	早																			
			普	●	●	●		●										●	●	●		
		九州	早																			
			普	●	●	●													●	●		

II-1 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マ刈	オ刈	刈刈	ミ刈刈	ハラ刈効	刈刈イ	刈効	ヒ刈シ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-1 7.RPC-208 乳	土壌混和処理	北海道		●	●	●			●					播代時 (~4)	50ml /a		●	●	●	2	混和時の水深 3-5cm
		東北		●	●	●												●	●		
		北陸		●	●	●												●	●	1	混和深 2-3cm
		関東・東山・東海	早	●	●	●		●									●	●	●		
			普	●	●	●		●								●	●	●	●	2	
		近畿・中国	早																	1	
			普	●	●	●		●									●	●	●		
		四国	早																		
			普	●	●	●		●									●	●	●		
		九州	早	●	●	●		●										●	●		
			普																		

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マ刈	オ刈	刈刈	ミ刈刈	ハラ刈効	刈刈イ	刈効	ヒムシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土1.5	壤土	埴土	埴土	減水深cm/d	使用上の注意		
II-1 & TCG-128 乳	土壌混和処理	北海道		○	○	○			○					播代時 (～4)	50ml/a	○	○	○	○	2	混和時の水深 3-5cm		
		東北		○	○	○		○								○	○	○	○				
		北陸		○	○	○		○									○	○	○	○		混和深 2-3cm	
		関東・東山・東海	早	○	○	○		○									○	○	○	○	1		
			普	○	○	○		○									○	○	○	○	2		
		近畿・中国	早	○	○	○		○												○	○	1	
			普	○	○	○		○									○	○	○	○			
		四国	早	○	○	○		○												○	○		
			普	○	○	○		○									○	○	○	○			
		九州	早																				
			普	●	●																●	●	

II-2 移植前後土壌処理

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マ刈	オ刈	刈刈	ミ刈刈	ハラ刈効	知刈イ	枳効	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 1.CG-113 -1kg 粒	土壌処理	北海道		○1	○	○始			○始					播代後~-4 ,+0~+5 (元1 1L)	100 g/a	1.5	●	○	○	○	2	
		東北		○1	○	○始		○始	○始							○	○	○				
		北陸		○1	○	○始		○始	○始							○	○	○				
		関東・東山・東海	早	○1	○	○始										○	○	○				
			普	●1	●	●始										●	●	●				
		近畿・中国	早	●1	●	●始								播代後~-4 ,+0~+3 (元1 1L)			●	●	●	1		
			普	●1	●	●始										●	●	●				
		四国	早	●1	●	●始										●	●	●				
			普	●1	●	●始										●	●	●				
		九州	早																			
		普	●1	●	●始												●	●				

II-2 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリン	オキイ	クワ	ミカサ	ヘラ	加クイ	サカ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 2. CGM-71 フロアブル	土壌処理	北海道		●	●	●	●		●						+O	50~75ml/a		●	●	●	2	田植同時散布可能 (東北・関東・東山・東海)
		東北		●	●	●	●												●	●	1	
		北陸		●	●	●	●											●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早	●	●	●	●											●	●	●	●	
			普	●	●	●	●											●	●	●	●	
		近畿・中国	早																			
			普	●	●	●	●											●	●	●	●	
		四国	早																			
			普	●	●	●	●											●	●	●	●	
		九州	早																			
			普	●	●	●	●	●										●	●	●	●	

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリン	オキイ	クワ	ミカサ	ヘラ	加クイ	サカ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 3. KPP-314 粒	土壌処理	北海道													植代後~-4 +O~+3 (元11L)	300g/a						(31)
		東北		●1	●														●	●	1.5	
		北陸		●1	●													●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マリン	オキイ	クワ	ミカサ	ヘラ	加クイ	サカ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 4. KPP-314 フロアブル	土壌処理	北海道													植代後~-4 +O~+3 (元11L)	50ml/a						(31)
		東北		●1	●														●	●	1.5	
		北陸		●1	●													●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

II-2 つづき

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	オウゴン	ミナツツ	ハナツツ	知ツツイ	サツツ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意			
II-2 5.KPP-2005 フロアブル	土壌処理	北海道		●1	●	●始								植代後~-4 +0~+3 (元1L)	100 ml/a	●	●	●	●	2	(31)			
		東北		●1	●	●始	●始									●	●	1.5						
		北陸		●1	●	●始	●始						●			●	●	2						
		関東・東山・東海	早																					
			普	●1	●	●始	●始									●	●	●	●					
		近畿・中国	早																					
			普	●1	●	●始	●始									●	●	●	●	1				
		四国	早																					
			普	●1	●	●始	●始							●	●	●	●							
		九州	早																					
			普	●	●	●												●	●					

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	オウゴン	ミナミツ	ハナツ	カウイ	カウイ	ヒムシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 6.MO-338 -1kg 粒	土壌処理	北海道		○1	○								植代後~-4 +0~+6 (元I L)	100 g/a	○	○	○	○	2	
		東北		○1	○										○	○	○	○		
		北陸		○1	○										○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	●1	●								植代後~-4 +0~+3 (元I L)		●	●	●	●		
			普	●1	●										●	●	●	●		
		近畿・中国	早	●1	●										●	●	●	●	1	
			普	●1	●										●	●	●	●	1.5	
		四国	早	●1	●										●	●	●	●	1	
			普	●1	●										●	●	●	●	1.5	
		九州	早	○1	○								植代後~-4 +0~+6 (元I L)		○	○	○	○	1	
			普	○1	○										○	○	○	○	2	

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	オウゴン	ミナミツ	ハナツ	カウイ	カウイ	ヒムシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 7.MTS-1 フロアブル	土壌処理	北海道		○1	○	○始			○始				植代後~-4 +0~+5 (元I L)	100 ml/a	○	○	○	○	2	田植同時 散布可能 (東北・近畿・中国・四国)
		東北		○1	○	○始										○	○	○	2	
		北陸		○1	○	○始										○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○1	○	○始										○	○	○		
			普	○1	○	○始										○	○	○		
		近畿・中国	早	○1	○	○始										○	○	○	1	
			普	○1	○	○始									●	○	○	○	1.5	
		四国	早	○1	○	○始										○	○	○	1	
			普	○1	○	○始									●	○	○	○	1.5	
		九州	早	●1	●	●始										●	●	●	1	
			普	●1	●	●始										●	●	●		

II-2 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	オウゴン	ミナカツ	ハラタツ	カクイ	カキ	ヒムシロ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深cm/d	使用上の注意
II-2 8.MTS-1 -1kg 粒	土壌処理	北海道		○I	○	○始			○始				植代後～-4, +0～+5(元I1L)	100 g/a		○	○	○	2	
		東北		○I	○	○始			○始				植代後～-4, +0～+6(元I 1L)			○	○	○		
		北陸		○I	○	○始			○始							○	○	○		
		関東・東山・東海	早	●1	●	●始							植代後～-4, +0～+5(元I 1L)			●	●	●		
			普	●1	●	●始										●	●	●		
		近畿・中国	早	●1	●	●始										●	●	●	1	
			普	●1	●	●始										●	●	●	1.5	
		四国	早	●1	●	●始										●	●	●	1	
			普	●1	●	●始										●	●	●	1.5	
		九州	早	●1	●	●始							植代後～-4, +0～+6(元I 1L)			●	●	●	1	
			普	●1	●	●始										●	●	●		

II-3 移植後土壌処理

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	オウゴン	ミナカツ	ハラタツ	カクイ	カキ	ヒムシロ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深cm/d	使用上の注意
II-3 1.TSR-121 フロアブル	土壌処理	北海道		●1.5	●	●始							+0～元I1.5L	50 ml/a		●	●	●	2	田植同時散布可能(東北) (33)
		東北		●1.5	●	●始										●	●	●		
		北陸		●1.5	●	●始										●	●	●		
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●2										●	●	●		
			普	●1.5	●	●2										●	●	●		
		近畿・中国	早	●1.5	●	●始										●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●始										●	●	●	1.5	
		四国	早	●1.5	●	●始										●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●始										●	●	●	1.5	
		九州	早																	
			普	●1.5	●	●始											●	●	1	

II-3

2.Y-873-1kg 粒

「継」

II-4 茎葉兼土壌処理

II-4

1.DEH-112 粒

「継」

II-4

2.DEH-112-1kg 粒

「継」

II-4

3.DEH・BAS マイクロエマルジョン

「継」

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツ	オウゴン	ミナカツ	ハラタツ	カクイ	カキ	ヒムシロ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深cm/d	使用上の注意
II-4 4.モリネートSM -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		○2.5	○	○3	○4		○4			○前	+15～元I2.5L	100 g/a	○	○	○	○	2	(1) (8)
		東北		○3.5	○	○3	○盛						+15～元I3.5L(元I 5L以降)		○	○	○	○		
		北陸		○3.5	○	○3	○6								○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○3	○	○3		○3					+15～元I3L		○	○	○	○	1	
			普	○3	○	○3		○3								○	○	○		
		近畿・中国	早										+15～元I3.5L							
			普	●3.5	●	●3	●4	●3				●前				●	●	●		
		四国	早																	
			普	●3.5	●	●3	●4	●3				●前				●	●	●		
		九州	早	●3	●	●3							+15～元I3L				●	●		
			普														●	●		

II-5 適用時期拡大

II-5
1. DEH-112 マイクロエマルジョン 「継」

II-5
2. DEH・BAS マイクロエマルジョン 「継」

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マカド	オリーブ	ミカド 列	オリーブ 列	知り イ	オリーブ 列	ミカド 列	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤土	壤 土	塩 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅱ-5 3.NC-311NS 粒	土壌 処理	北海道																		
		東北		○	○2	○2	●2	○2	○始		○発生 期		+15~+20	300 g/a		○	○	○	2	(21) (28) (42)
		北陸			○	○2	●2	●2	○2		●発生 期					○	○			
Ⅱ-6-(1) 7 併用		関東・ 東山・ 東海	早		●	●2	●2	●2									●	●	●	
			普			○	○2	●2	○2		○始	○2					●	○	○	○
		近畿・ 中国	早		●	●2	●2	●2				●発生 期	●前	○再 生			●	●	●	●
			普			○	○2	○2	○2		○始			○前			○	○	○	○
		四国	早		●	●2	●2	●2				●発生 期	●前	●始			○	○	○	○
			普			○	○2	○2	○2		○始						○	○	○	○
九州		早		●	●2	●2	●3									●	●	●	●	
	普			○	○2	○2	○3		○始							○	○	○		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北・関東・東山・東海、近畿～九州）

[illegible]

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北・関東・東山・東海、近畿・中国・四国）
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（北陸、近畿・中国・四国）

	処理 法	地域名	作 期	元 一 年 広葉 マサバ	初イ	初ウ	ミサバ 刈	ハサバ 効	知イ	サバ 効	ヒム 日	落類 表/層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅱ-5 5. TH-913⑥ 粒	土 壌 処 理	北海道		○	○2	○2		○2			○発生 期	○発生 前	セリ ○再生 前 →始	+10~+15	300 g/a	● 1.5	○	○	○	2	(21) (42)
		東北		○	○2	○2	○2		○始							○	○	○			
北陸			○	○2	○2	○2										○	○	○			
Ⅱ-6-(1) 18 併用		関東・東山・東海	早																		
			普		○	○2	○2	○2		○始								○	○	○	○
		近畿・中国	早																		
			普		○	○2	○2	○2		○始								○	○	○	○
		四国	早																		
			普		○	○2	○2	○2		○始								○	○	○	○
		九州	早																		
	普			○	○2	○2	○2		●始								○	○	○	○	

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北、関東～九州）

クロクワイには有効な前回の組合わせで連年施用することにより、とうにクロクワイ徹底防除には2回散布の連年施用する。(近畿・中国・四国)

II-5 つづき

	処理法	地域名	作期	バI	一年広葉マリイ	オクイ	ウカ	ミカサ	ハラサ	カウイ	カウイ	ヒムシ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-5 6. モリネートSM -1kg 粒	茎葉葬土壌処理	北海道		●2.5	●	●3	●4		●4				●前		+20~+25(バI2.5L)	100 g/a	●	●	●	●	2	(1) (8) (9) (21) (39)
		東北		○3.5	○	○3	○4	○3	○4			矢 ○の 葉 ○1 2L	○発生 ○期		+20~+30 (バI5L以降)		○	○	○	○		
		北陸		○3.5	○	○3	○4	○3	○4								○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	●3	●	●3	●4	●3					●発生		+20~+30 (バI3L)		●	●	●	●	2	
			普	○3	○	○3	○4	○3					●期				●	●	○	○		
		近畿・中国	早												+20~+30						1	
			普	●3.5	●	●3	●4	●3					●前					●	●	●		
		四国	早																			
			普	●3.5	●	●3	●4	●3					●前					●	●	●		
		九州	早	●3	●	●3		●3										●	●	●		
			普																			

II-6-(1) クログワイ対象

II-6-(1)
1. DM-72 粒 VII-3-(1) 1 参照

II-6-(1)
2. DPX-84MN 粒 VII-2 11 参照

II-6-(1)
3. DPX-84MN○ 粒 VII-2 12 参照

	処理法	地域名	作期	バI	一年 広葉 マツイ	オクイ	ウカ	ミカサ	ハラサ カ	カウイ	カウイ	ヒムシ 口	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
Ⅱ-6-(1) 4. JC-940 粒 Ⅱ-3 Ⅱ-6-(5) 1 併用	土 壌 処 理	北海道																				(40) (42)			
		東北			○一 年	○始	○始		●始					マ イ ●始	+ 1～ オクイ発生始 (但し、暖 地はオクイ 1Lまで)	300 g/a		○	○	○	○		2		
		北陸			○生 カ	○始	○始												○	○	○	○			
		関東 ・東山 ・東海	早			○・カ ヤツ																			
			普			○リ クサ	○始	○始		○始										○	○	○	○		
		近畿 ・中国	早			○・マ ツバ																			
			普			○・マ ツバ	○始	○始		○始											○	○	○	○	1
		四国	早			○・マ ツバ																			
			普			○・マ ツバ	○始	○始		○始											○	○	○	○	
		九州	早																						
			普				○	○始	○始		●始												○	○	

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北・関東・東山・東海、近畿~九州)

Ⅱ-6-(1)
5. KUH-883 粒 Ⅶ-1 8 および Ⅶ-2 18、Ⅷ-1 1 参照

II-6-(1)
6. KUH-8830 粒 VII-1 10 および 下記 参照

[illegible]

* 初期剤を全処理に少量散布することにより除草効果向上（北陸、関東～四国）
クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。（関東～九州）

II-6-(1)
7.NC-311NS 粒 II-5 3 参照

II-6-(1)
8. NC-311SCQ 粒 VII-2 21 参照

II-6-(1)
9. NC-326 粒 VII-3-(1) 9 参照

II-6-(1)
10. NC-3260 粒 「継」

II-6-(1)
11. NC-329 粒 VII-2 26 参照

	処理 方法	地域名	作 期	元 一 年 広葉 マツイ	オシイ	メカ リ	ミカ リ	オシ 効	知 効 イ	サカ リ	ヒル 日	落 類 表 層 剥 離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	堆 填 土	埋 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅱ-6-(1) 12. NJM-754 粒 Ⅶ-1に併用	土 壌 処 理	北海道	〇1.5	〇	〇2	〇2		〇2			〇発 生 〇期	〇発 生 前		+3~+11.5L	300 g/a	1.5〇	〇	〇	〇	2	(34) (42)	
		東北	〇1.5	〇	〇始	〇始	〇始	〇始				〇発 生 〇期					〇	〇	〇	〇		
		北陸	〇2	〇	〇2	〇2	〇2	〇始							+3~+12L		〇	〇	〇	〇		
		関東 ・東山 ・東海	早	〇2	〇	〇2	〇2	〇始									〇	〇	〇	〇		
			普	〇2	〇	〇2	〇2	〇2		〇始							1.5〇	〇	〇	〇		〇
		近畿 ・中国	早	〇1.5	〇	〇2	〇2	〇2					〇発 生 〇期			+3~+11.5L		〇	〇	〇		〇
			普	〇2	〇	〇2	〇2	〇2		〇始			〇発 生 〇期			+3~+12L		〇	〇	〇		〇
		四国	早	〇1.5	〇	〇2	〇2	〇2					〇発 生 〇期			+3~+11.5L		〇	〇	〇		〇
			普	〇2	〇	〇2	〇2	〇2		〇始			〇発 生 〇期			+3~+12L		〇	〇	〇		〇
		九州	早	〇1.5	〇	〇2	〇2	〇2					〇発 生 〇期			+3~+11.5L		〇	〇	〇		〇
普	〇2		〇	〇2	〇2	〇2					〇発 生 〇期			+3~+12L		〇	〇	〇	〇	1.5		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(関東・東山・東海、近畿・中国・四国)

Ⅱ-6-(5) シズイ対象

II-6-(5)

1. JC-940 粒

II-6-(1) 4 参照

	処理 法	地域名	作 期	1年 広葉 マツイ	ナリイ	ナリイ	ミナ ナリイ	ナリイ	ナリイ	ナリイ	種類 剥離		処理時期	使用 量 製品	砂 壤 土	壤 土	壤 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅱ-6-(5) 2.NC-311R 粒 Ⅶ-2に併用	産業 棄土 壤処理	北海道	〇2	〇	〇2	〇2	〇	〇2			〇発生 期	〇剥離 〇再生 〇前 〇生 〇始	〇*	+10~+20(12L)	300 g/a	〇	〇	〇	2	(28) (34) (38) (40) (42) (44)	
		東北	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2	〇2	〇始	〇始		〇前 〇生 〇始	〇**	+7~ 12.5L		〇	〇	〇			
		北陸	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2	〇2		〇前		〇発生 期	〇剥離 〇再生 〇前 〇生 〇始	*12.5L **12.5L 発生始 発生前~始		〇	〇	〇			
		関東 ・東山 ・東海	早						〇始	〇始	〇	〇本 業展 開期				〇	〇	〇			
		近畿 ・中国	早						〇始	〇始				+5~ 12.5L						1	
			普	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2		〇始	〇始						〇	〇	〇		
		四国	早						〇始	〇始											
			普	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2		〇始	〇始		〇剥離 〇再生 〇前 〇生 〇始				〇	〇	〇		
		九州	早	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2		〇始	〇前	〇期	〇剥離 〇再生 〇前 〇生 〇始				〇	〇	〇		
			普	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2		〇始	〇前	〇期							〇	〇	1.5

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、関東～九州)
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北～九州)

II-6-(6) エゾノサヤヌカグサ対象

II - 6 - (6)

1. DPX-84MN 粒

VII-2 11 参照

II - 6 - (6)

2. NC-311HW 粒

VII-1 16 参照

II-6-(7) クサネム対象

II - 6 - (7)

1. BAS-3510 (Na) 粒 「継」

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツイ	オキイ	ウツカ	ミツカ ツ	ハナツ ツ	カマ ツ	ササ ツ	ヒメ ツ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
II-6-(7) 2.BAS-3510 NaO 液	窒素処理	北海道		○	○*	○*	○*	○*	○	○*			17サ 101~4L 20cm カサ 101~30cm 増殖期	+25~+55	50 ~70 ml/a	○	○	○	○	(6) (10) (11) (12) (21) (20)	
		東北		○生 育期	○*	○*	○*	○*	○	○*							○	○	○		○
		北陸		○	○※	○※	○※	○*									○	○	○		○
		関東・ 東山・ 東海	早	○生 育	○※	○※	○※		○15 s	○	○発生盛期			本葉展開期	+30~+55		○	○	○		○
			普	○期	○※	○※	○※		○30 cm	○	○失効葉 4枚、5-6L			カサ 本葉展開期	+25~+55		○	○	○		○
		近畿・ 中国	早	○生 育	○※	○※	○※	○*		○発生盛期							○	○	○		○
			普	○期	○※	○※	○※	○*		○発生盛期							○	○	○		○
		四国	早	○生 育	○※	○※	○※	○*		○発生盛期							○	○	○		○
			普	○期	○※	○※	○※	○*	○15 s	○*				カサ 101~30cm 増殖期	+25~+50		○	○	○		○
		九州	早	○生 育	○*	○※	○※	○※	○30 cm								○	○	○		○
	普	○期	○※	○※	○※	○※	○								○	○	○	○			

※発生盛期～花茎抽出期 ※発生盛期～増殖初期 ※発生盛期～増殖中期 7/21 徹底防除 2 回散布の 連年施用。 (東北・関東～九州)
12/24 多量用 2 回散布

II-6-(8) コウキヤガラ対象

II - 6 - (8)

1. NC-311CG④ 粒

Ⅶ-1 14 参照

II - 6 - (8)

2. NC-311SC 粒

VII-2 21 参照

Ⅲ-1 港水直播

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツ	ササ	ササ	ミササ	ハササ	知サ	ササ	ヒサ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅲ-1 1. KUH-8830 粒	土壌処理	北海道													4月11日~12日	300 g/a						機械播き 条播 適正覆土
		東北																				
		北陸		●2	●	●2	●2												●	●	1	
		関東・東山・東海											発生									
				●2	●	●2	●2	●2					●発生期						●	●	●	2
		近畿・中国												●再生前					●	●	●	1
		四国												●始					●	●	●	
		九州																				

	処理法	地域名	作期	ベI	一年 広葉 マツ	ササ	ササ 刈	ミササ 刈	ハササ 刈	知サ イ	ササ	ヒサ 0	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅲ-1 2. NC-311HW 粒	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○発生 期	○刈 再生前	～始	+5 ~ベI 2L	300 g/a		○	○	○	2			
		東北		○2	○	○2	○2												○	○		○		
		北陸		○2	○	○2	○2	●2											●	○		○		
		関東・東山・東海																						
				○2	○	○2	○2	○2					○発生 期	○刈 再生前			～始			○	○	○	2	
		近畿・中国																		○	○	○		○
				○2	○	○2	○2	○2												○	○	○		
		四国																		○	○	○		○
		○2	○	○2	○2	○2										○	○	○	○	1				
九州																●	○	○	○					

	処理法	地域名	作期	元I	一年 広葉 マツ	ササ	ササ	ミササ	ハササ	知サ イ	ササ	ヒサ ロ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅲ-1 3. NC-311HW 1kg 粒	土壌 処理	北海道		●2	●	●2	●2			●2			●発生 期	●再生 前~始	+5 ~元I 2L	100 g/a		●	●	●	2			
		東北																						
		北陸																						
		関東・ 東山・ 東海												●前							●	●	●	
		近畿・ 中国																			●	●	●	●
																					●	●	●	●
		四国																			●	●	●	●
																					●	●	●	●
九州																		●	●	●	●			
																		●	●	●	●	1		

Ⅲ-1 つづき

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツイ	杉イ	カサ	ミササギ	ハナハチ	カサ	カサ	ヒメシロ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅲ-1 4.NC-311 粒	土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●刈再生前~始		4/1L~4/12.5L	300g		●	●	●	2	処理時に根が出ている場合は、葉等の発生することがある。
		東北		●2.5	●	●2	●2												●	●	1	
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2											●	●		
		関東・東山・東海		●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●刈再生前~始					●	●	●	2	
		近畿・中国											●始								1	
		四国		●2.5	●	●2	●2	●2											●	●	●	
		九州												●刈再生前~始					●	●	●	

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツイ	杉イ	カサ	ミササギ	ハナハチ	カサ	カサ	ヒメシロ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅲ-1 5.TH-913 HSK-1kg 粒	土壌処理	北海道		●2	●	●2	●2		●2			●発生期	●刈再生前~始		4/1L~4/12L +5~4/12L	100g/a		●	●	●	2	
		東北		●2	●	●2													●	●	1	
		北陸		●2	●	●2	●2												●	●		
		関東・東山・東海		●2	●	●2	●2	●2				●発生期						●	●	●	2	
		近畿・中国		●2	●	●2	●2	●2										●	●	●	2	
		四国		●2	●	●2	●2	●2										●	●	●		
		九州		●2	●	●2												●	●	●	1	

Ⅲ-2 乾田直播

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツ	杉	カサ	ミササギ	ハナハチ	カサ	カサ	ヒメシロ	落葉表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅲ-2 1.KUH-8830 粒	土壌処理	北海道														300 g/a					2	
		東北																				
		北陸																				
		関東・東山・東海		○2	○	○2	○2	○2					○期	○前		入水後7日 ～ノビエ2L			○	○	○	
		近畿・中国		○2	○	○始	○始	○始								入水後3日 ～ノビエ2L			○	○	○	
		四国		○2	○	○始	○始	○始											○	○	○	
		九州																				

Ⅲ-2
2.KUH-911 液 「継」Ⅲ-2
3.KUH-911A フロアブル 「継」

Ⅲ-2 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年 広葉 マツ	オシロイ	クワ	ミカヅ リ	ハラタ 効	知カ イ	オモ コ	ヒメシ ロ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅲ-2 4. KUH-914 乳	茎葉兼土壌処理	北海道																				DCPA剤 の使用 上の注 意事項 を守る	
		東北																					
		北陸																					
		関東・東山・東海													+15~+13L (入水前)	80~100 ml/a							
		近畿・中国		○	○													○	○	○			
				○	○													○	○	○			
		四国		○	○													○	○	○			
		九州													+12~+13L (入水前)								
				●	3	●																	●

Ⅳ 畦畔雑草

	処理法	地域名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 1. Hoe-86610 液	茎葉処理	北海道	○ 全草種	雑草生育期 (草丈30cm以下)	100ml/a	全土壌	(23) (24) 多年生雑草は 100ml/a のみ
		東北	○		50~100ml/a		
		北陸	○		75~100ml/a		
		関東・東山・東海	○		100ml/a		
		近畿・中国	○				
		四国	○				
		九州	○		50~100ml/a		

	処理法	地域名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 2. Hoe-866-3H 水和	茎葉処理	北海道		雑草生育期 (草丈30cm以下)	50~75g/a	全土壌	(23) (24)
		東北	● 全草種				
		北陸	●				
		関東・東山・東海	○				
		近畿・中国	○				
		四国	○				
		九州	○				

	処理法	地域名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 3. HSW-9106 液	茎葉処理	北海道	○ 全草種	雑草生育期 (草丈10cm以下)	500~700ml/a	全土壌	(23) (24)
		東北					
		北陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四国					
		九州					

Ⅳ
4. KUH-913 液 「継」

Ⅳ つづき

	処理法	地域名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 5. Mon-6069 水溶	茎葉処理	北海道	全草種 (スギナは除く)	雑草生育期 (草丈30cm以下)	15~30 g/a *少量散布: 希釈水量2.5l/aでも有効 専用の散布ノズルを用いる	全土壌	(23) (24)
		東北					
		北陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四国					
		九州					

	処理法	地域名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 6. MR-29 水溶	茎葉処理	北海道	全草種	雑草生育期 (草丈30cm以下)	40~60 g/a	全土壌	(23) (24)
		東北					
		北陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四国					
		九州					

	処理法	地域名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 7. MW-851 液	茎葉処理	北海道	全草種	雑草生育期 (草丈30cm以下)	50~100ml/a	全土壌	(23) (24)
		東北					
		北陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四国					
		九州					

Ⅳ
8. SUM-302 顆粒性水和 「継」

	処理法	地域名	対象雑草名	処理時期	使用量・製品 (希釈水量)	適用土壌	使用上の注意
Ⅳ 9. ULV-03 液	茎葉処理	北海道	全草種 (スギナは除く)	雑草生育期 (草丈30cm以下)	300~500ml/a 原液散布: 専用の散布機を用いる	全土壌	(23) (24)
		東北					
		北陸					
		関東・東山・東海					
		近畿・中国					
		四国					
		九州					

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マバI	オハI	ウハI	ミハI	ハハI	カハI	ヒハI	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 5.DPX -84CGQ -1kg 粒	土壌処理	北海道																			
		東北																			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2	○始	○	○	●切再	*北陸の砂壌土は+5以降+3~+12L	100 g/a	○	○	○	○	2	(26) (28) (34) (38)
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	●2	○2			●発生期	●発生期	●切再	+5~+12L			○	○	○		
			普	○2	○	○2	●2	○2			●発生期	●発生期	●切再				○	○	○		
		近畿・中国	早	●2	●	●2	●2	●2			●発生期	●発生期	●切再	+5~+12L			●	●	●	1	
			普	○1.5	○	○始		○2			○発生期	○発生期	○切再	+5~+11.5L			○	○	○		
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2			●発生期	●発生期	●切再	+5~+12L			●	●	●		
			普	○1.5	○	○始		○2			○発生期	○発生期	○切再	+5~+11.5L			○	○	○		
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2			●発生期			+5~+12L				●	●		
			普	●2	●	●2	●2	●2			●発生期						●	●	●		

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マバI	オハI	ウハI	ミハI	ハハI	カハI	ヒハI	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 6.DPX-84M 粒	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2		○発生期	○前	○切再	+7~+12L	1.5 g/a	○	○	○	○		
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○2		○発生期	○前	○切再	+0~+12L	300 g/a	○	○	○	○	2	(28)
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2			○前	○始	+7~+12L			○	○	○		
		関東・東山・東海	早											+5~+12L							
			普	○2	○	○2	○2	○2									○	○	○	○	
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マバI	オハI	ウハI	ミハI	ハハI	カハI	ヒハI	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 7.DPX-84MO 粒	土壌処理	北海道																			
		東北																			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2		○始	○		○発生始~盛	+0~+12L	300 g/a	○	○	○	○	2	(28) (38)
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	○2	○2			○発生期			+5~+12L			○	○	○	○	
			普	○2	○	○2	○2	○2		○始	○		○発生始~盛	+0~+12L			○	○	○	○	
		近畿・中国	早	○2	○	○2	○2	○2			○発生期	○再		+3~+12L		1.5	○	○	○	○	
			普	○2	○	○2	○2	○2			○期	○前	○切再	+0~+12L		1.5	○	○	○	○	
		四国	早	○2	○	○2	○2	○2			○発生期	○再		+3~+12L		1.5	○	○	○	○	
			普	○2	○	○2	○2	○2			○期	○前	○切再	+0~+12L			○	○	○	○	
		九州	早	○2	○	○2	○2	○2			○発生期	○再		+5~+12L			○	○	○	○	
			普	○2	○	○2	○2	○2			○期	○始		+0~+12L			○	○	○	○	

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツバ	ナツメ	クナ	ミナツメ	ハラタ	クナ	ナツメ	ヒメ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 11. KUH -8830 -1kg 粒	土壌処理	北海道																				
		東北																				
		北陸		02	0	02	02	02	02		0始	0発生	0前	0再生	+5~ ベI 2L	100 g/a	0	0	0	0	2	(26) (34) (41)
		関東・東山・東海	早	02	0	02	02	02					0発生	0再生			0	0	0	0		
			普	02	0	02	02	02					0前	0始				0	0	0		
		近畿・中国	早	●2	●	●2	●2	●2					●発生	●再生					●	●		
			普	02	0	02	02	02					●前	●再生				0	0	0	1	
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2					●発生	●再生					●	●		
			普	02	0	02	02	02					●前	●始				0	0	0		
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2					●発生	●再生			●	●	●	●	2	
			普	02	0	02	02	0始				0発生	0前				0	0	0	0		

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツバ	ナツメ	クナ	ミナツメ	ハラタ	クナ	ナツメ	ヒメ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 12. NC -311CG 粒	土壌処理	北海道		02	0	02	02		02			0	0前	0再生	+5~ベI 2L	150 g/a	0	0	0	0	2	(26) (28) (36) (38) (40) (42) (44)
		東北		02	0	02	02	02	02	0始	0始	0発生	0**	0再生	+0~ベI 2L	300 g/a	0	0	0	0		
		北陸		02	0	02	02	02	02			0		0再生			0	0	0	0		
		関東・東山・東海	早	02	0	02	02	02					0前	0始				0	0	0		
			普	02	0	02	02	02		0始	0始	0発生	0前	0				0	0	0		
		近畿・中国	早												*ナツメ 始~本葉 展開期 **ナツメ 前~始							+0は、 植土 ~植土
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北、関東・東山・東海）
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北、関東・東山・東海）
コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（東北）

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツバ	ナツメ	クナ	ミナツメ	ハラタ	クナ	ナツメ	ヒメ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 13. NC -311CG -1kg 粒	土壌処理	北海道		02	0	02	02		02			0	0前	0再生	+5~ベI 2L	100 g/a	0	0	0	0	2	(26) (28) (38) (40) (42)
		東北		02	0	02	02	02	02	0始	0始	0発生	0前	0再生			0	0	0	0		
		北陸		02	0	02	02	02	02			0		0始	+5~ ベI 2L		0	0	0	0		
		関東・東山・東海	早	02	0	02	02	02					●発生	●再生				●	0	0	1.5	
			普	02	0	02	●2	02				●発生	●前	●始				0	0	0	2	
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツイ	杉イ	カカ	ミカカ	ハカカ	カカイ	カカ	ヒカシ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意			
Ⅶ-1 14. NC -311CGD 粒 Ⅱ-6-(8) 1 併用	土壌処理	北海道																							
		東北																							
		北陸																							
		関東・東山・東海	早																						
			普																						
		近畿・中国	早	○1.5	○	○始	○始	○2				○2	○発生	○発生	○リ	+3~+11.5L	300 g/a	1	○	○	○	1	(26) (34) (38) (41) (42)		
			普	○1.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○再	○			○	○	2					
		四国	早	○1.5	○	○始	○始	○2			○2	○発生	○発生	○前	1			○	○	○	1				
			普	○1.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○始	○			○	○	2					
		九州	早	○1.5	○	○2	○2	○2		○始		○発生	○発生	○	○			○	○	1					
			普	○1.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○期	○前	○	○			○	○	1.5					

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（近畿・中国・四国・九州）
 オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する（近畿・中国・四国・九州）

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マツ	杉イ	ウカ	ミカ カ	ハカ カ	カカ イ	カカ	ヒカ シ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 壌 土	埴 土	減水深 cm/d	使用 上の 注			
VII-1 15. NC -311CGD -1kg 粒	土 壌 処 理	北海道																							
		東北																							
		北陸																							
		関東 ・東山 ・東海	早																						
			普																						
		近畿 ・中国	早	●1.5	●	●始	●始	●2						●発 生	●リ 再	+5~+11.5L	100 g/a		●	●	●	●	1	(26)	
			普	○1.5	○	○始	○始	○2						○前	○生 前	+3~+11.5L			○	○	○	○		(28)	
		四国	早	●1.5	●	●始	●始	●2						●発 生	●リ 再	+5~+11.5L			●	●	●	●		(34)	
			普	○1.5	○	○始	○始	○2						○前	○生 前	+3~+11.5L				○	○	○			
		九州	早	●1.5	●	●始	●始	●2						●発 生	●リ 再	+5~+11.5L			●	●	●	●			
			普	●1.5	●	●始	●始	●始						●期		+3~+11.5L			1	●	●	●	●	1.5	

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツ	杉イ	カカ	ミカカ	ハカカ	カカイ	カカ	ヒカシ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意	
Ⅶ-1 16. NC -311HW 粒 (BNC-311H) Ⅱ-6-(6) 2 併用	土壌処理	北海道		○2	○	○2	○2		○2			○	○前	○再生 ●2	+5 ~+12L	300 g/a	●1.5	○	○	○	2	(28) (34)	
		東北		○2	○	○2	○2	○2	○2			○生	○前	○再生 ●	+5 ~+12L		●	○	○	○			
		北陸		○2	○	○2	○2	○2				●		○再生 ●	+5 ~+12L			○	○	○			
		関東・東山・東海	早	●2	●	●2	●2					○生	○前	○再生 ●	+0 ~+12L		●	●	●	●			
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○再生 ●	○再生 ●	+0 ~+12L			○	○	○	○		
		近畿・中国	早	●2	●	●2	●2	●2				●生	●生	●前	+0 ~+12L			●	●	●	●		1
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○生	●始	+0 ~+12L			○	○	○	○		1.5
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2				●生	●生	●前	+0 ~+12L			●	●	●	●		1
			普	○2	○	○2	○2	○2				○期	○生	●始	+0 ~+12L			○	○	○	○		1.5
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2				●生	●生		+0 ~+12L				●	●	●		1
			普	○2	○	○2	○2	○2				●期			+0 ~+12L			○	○	○	○		

[illegible][illegible]

														処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深cm/d	使用上の注意		
処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マ州	ササイ	ワカツ	ミナツ	アキタ	カクイ	ホウシ	ヒメコ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	減水深cm/d	使用上の注意		
Ⅱ-6-(2) 8 併用	Ⅶ-1 19. NSK-855Q フロアブル	土壌処理	北海道																			
			東北																			
		北陸	●2	●	●2	●2	●2				●始			●再生前	+5~ノ12L	50mt/a	●	●	●	2	(28) (34) (38)	
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前	●再生前	+5~ノ11.5L			●	●	1	
			普	●1.5	●	●2	●2	●2							●始				●	●	2	
		近畿・中国	早	●2	●	●2	●2	●2							●再生前	+5~ノ12L			●	●	1	
			普	●2	●	●2	●2	●2							●再生前			●	●	1.5		
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2							●始				●	●	1	
			普	●2	●	●2	●2	●2							●			●	●	1.5		
		九州	早											●発生期								
普	●2		●	●2	●2	●2											●	●	●			

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	バ1	一年広葉マ刈	サ刈	刈刈	ミサ刈	ハラ刈	刈刈	サ刈	ビムシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 20. SKH-86020 粒 II-6-(1) 17 II-6-(2) 9 併用	土壌処理	北海道		02	0	02	0始		02			0発生	0前	刈 0再生 0始	300 g/a	0	0	0	0	2	(3) (26) (33) (38) (40) (41) (42)
		東北		02	0	02	02	02	02	0始	0始	0発生	0期	刈 0再生 0始							
		北陸		02	0	02	02	02						刈 0再生 0始							
		関東・東山・東海	早	02	0	02	0始	02						刈 0再生 0始							
			普	02	0	02	0始	0始		●始	●始	0発生	0前	刈 0再生 0始							
		近畿・中国	早	02	0	02	02	02				0発生	0期	刈 0再生 0始							
			普	02	0	02	02	02		●始	●始			刈 0再生 0始							
		四国	早	02	0	02	02	02				0発生	0期	刈 0再生 0始							
			普	02	0	02	02	02		●始	●始			刈 0再生 0始							
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2				●発生	●期	刈 0再生 0始							
			普	02	0	02	02	02		●始		0期		刈 0再生 0始							

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、関東～九州)
オモタカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、近畿・中国)

	処理法	地域名	作期	バ1	一年広葉マ刈	サ刈	刈刈	ミサ刈	ハラ刈	刈刈	サ刈	ビムシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 21. SL-4980 -1kg 粒	土壌処理	北海道		●2	●	●2	●2		●2			●発生	●発生	+0~バ12L	100 g/a		●	●	●	2	
		東北																			
		北陸																			
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	バ1	一年広葉マ刈	サ刈	刈刈	ミサ刈	ハラ刈	刈刈	サ刈	ビムシ	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 22. SL-498 -1kg 粒	土壌処理	北海道										●発生	●前	+0~バ11.5L	100 g/a		●	●	●	2	
		東北		●1.5	●	●始	●始	●始	●始			●発生	●前								
		北陸																			
		関東・東山・東海	早	●2	●	●2	●2						●前	+0~バ12L							
			普	●2	●	●2	●2						●前								
		近畿・中国	早																		
			普	●2	●	●始	●始	●始													
		四国	早																		
			普	●2	●	●始	●始	●始													
		九州	早																		
			普																		

VII-1 つづき

	処理方法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マカシ	オハクイ	ササキ	ミカシ	ハナタリ	知カシ	ササキ	ヒメシロ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壤土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意			
VII-1 23. SL-970 フロアブル	土壌処理	北海道		○1.5	○	○2	○2			○2		○発生期			+3~ベ1 1.5L	100 ml/a	1.5	○	○	○	2	(33) (34)		
		東北		○2	○	○2	○2	○2	●2			●発生期			+3 ~ ベ1 2L		●	○	○	○				
		北陸		○2	○	○2	○2	○2	○2				●		+3 ~ ベ1 2L				○	○	○			
		関東・東山・東海	早	○2	○	○2	●2						●発生期							○	○		○	
			昔	○2	○	○2	●2	○2					●発生期					●	○	○	○			
		近畿・中国	早	●2	●	●2	●始														●		●	1
			昔	○2	○	○2	○2	○2											○	○	○		○	
		四国	早	●2	●	●2	●始																●	●
			昔	○2	○	○2	○2	○2												○	○		○	○
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2													●		●	●
昔	○2		○	○2	○2	○2													○	○	1.5			

	処理法	地域名	作 期	元 年 広葉 マツ	杉	ツバ キ	ミナ ツバ キ	ハナ ツバ キ	ツバ キ	ヒメ ツバ キ	落 葉 樹 類		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	減 水 深 cm/d	使用上 の注意			
Ⅶ-1 24. SW-907 粒	土壌処理	北海道												+3 ~ 元 2L	300 g/a		○	○	○	2 (3) (26)		
		東北	○2	○	○2	○2	○2	○2				○発生 前					○	○	○			
		北陸	○2	○	○2	○2	○2										○	○	○			
		関東・ 東山・ 東海	早 ●2 ●	●2 ●2 ●2								○発生 前					●	●	●			
		近畿・ 中国	普	○2	○	○2	○2	○2					○発生 期			切○再 生前 S始			●	○	○	
			早	○2	○	○2	○2	○2				○発生 期	○発生 前						○	○	○	1
		四国	普	○2	○	○2	○2	○2				○発生 期	○発生 前						○	○	○	1.5
			早	○2	○	○2	○2	○2				○発生 期	○発生 前			○始			○	○	○	1
		九州	普	○2	○	○2	○2	○2				○発生 期	○発生 前						○	○	○	1.5
			早	●2 ●	●2 ●2 ●2								○発生 期			●発生 前			●	●	●	1

VII-1
25. SW-921 粒 「繼」

[illegible]

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツノ	オウノ	ミナツノ	ハナノ	カノ	サノ	ヒノ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 27. TDS -888Q フロアブル	土壌処理	北海道												+3 ~ 元11.5L	50 ml/a						(3) (28) (33) (34)
		東北																			
		北陸		●1.5	●	●始	●始	●始									●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生					●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生前					●	●	●	2	
		近畿・中国	早	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生	●再				●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生期	●発生前				●	●	●	2	
		四国	早	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生	●再				●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生期	●始				●	●	●	2	
		九州	早	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生					●	●	●	1.5	
			普	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生期					●	●	●		

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツノ	オウノ	ミナツノ	ハナノ	カノ	サノ	ヒノ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 28. TH-913 ADSO 粒	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2	●2	●2				●発生	●再	+3 ~ 元11.5L	300 g/a		●	●	●		(28) (34)
		東北		●1.5	●	●始	●始	●始				●発生期	●発生前				●	●	●	2	
		北陸		●1.5	●	●始	●始	●始				●発生	●再				●	●	●		
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生	●再				●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生前	●再				1	●	●	2	
		近畿・中国	早	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生	●発生				●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生期	●発生前				●	●	●		
		四国	早	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生	●発生				●	●	●		
			普	●1.5	●	●始	●始	●始				●発生期	●発生前				●	●	●		
		九州	早	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生					●	●	●		
			普	●1.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●前				●	●	●	1.5	

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツノ	オウノ	ミナツノ	ハナノ	カノ	サノ	ヒノ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 29. TH-913 HSK-1kg 粒	土壌処理	北海道		●2	●	●2	●2	●2				●発生	●再	+5 ~ 元12L	100 g/a		●	●	●		
		東北		●2	●	●2	●2	●2				●発生期	●再					●	●	2	
		北陸		●2	●	●2	●2	●2					●再				●	●	●		
		関東・東山・東海	早									●発生	●発生								
			普	●2	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前				●	●	●		
		近畿・中国	早	●2	●	●2	●2	●2					●再				●	●	●	1	
			普	●2	●	●2	●2	●2					●発生前				●	●	●	1.5	
		四国	早	●2	●	●2	●2	●2					●再				●	●	●	1	
			普	●2	●	●2	●2	●2					●始				●	●	●	1.5	
		九州	早																		
			普																		

	処理方法	地域名	作期	バC1	一年 広葉マカII	オウイ	ウカガ	Mカサ 刈	ハカサ 効	カカイ	セカ	ヒカシ 0	藻類表層剥離		処理時期	使用量・ 製品	砂 壤土	塩 壤土	塩 土	減水深 cm/d	使用上の注意	
VII-1 30.	TH-913 ST フロアブル	土壌処理	北海道	●1.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●発生前	●刈再 生前	+0 ~ バ11.5L	50 ml/a		●	●	●		田植時散布可 (東北・関東東・東山・東海・九州)
			東北	●1.5	●	●始	●始	●始	●始			●		●再生前				●	●	●	2	
			北陸	●1.5	●	●始	●始	●始	●始					●始				●	●	●		
			関東・東山・東海	早									●発生期		●刈再生前							
			普	●1.5	●	●2	●2	●2		●始			●発生期		●再生前				●	●	●	
			近畿・中国	早	●1.5	●	●始								●再生前				●	●	●	1
			普	●1.5	●	●始	●始	●始							●始			●	●	●	●	1.5
			四国	早	●1.5	●	●始								●再生前				●	●	●	1
			普	●1.5	●	●始	●始	●始							●再生前			●	●	●	●	1.5
			九州	早											●始							
			普	●1.5	●	●始	●始	●始											●	●	●	

	処理方法	地域名	作期	バ1	一年広葉マツル	ナリイ	ウカ	ミヤカサ	ヘチカ	カクイ	セキ	ヒメコ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	塩土	適土	減水深cm/d	使用上の注意	
Ⅶ-1 31. TSM-612 フロアブル	土壌処理	北海道		〇	1.5	〇	〇	始	〇	始		〇	発生期		+0~+211.5L (+0が100m10㍓)	ml/a 100~120	1.5	〇	〇	〇	〇	2	(33) (34) (3) 田圃同時散布可 (全域)水口処理可 (九州を除く全域)
			東北		〇	1.5	〇	〇	始	〇	始	〇	〇	発生期				〇	〇	〇	〇		
			北陸		〇	1.5	〇	〇	始	〇	始	〇	〇	〇				〇	〇	〇	〇		
		関東・東山・東海	早	〇	1.5	〇	〇	2	〇	2	〇	始			+0~+211.5L	80~100	1.	〇	〇	〇	〇		
			普	〇	1.5	〇	〇	2	〇	2	〇	始					〇	〇	〇	〇			
		近畿・中国	早	〇	1.5	〇	〇	始	〇	2	〇	2	〇	発生期			●	〇	〇	〇	〇	1	
			普	〇	1.5	〇	〇	2	〇	2	〇	2	〇	〇			〇	〇	〇	〇	2		
		四国	早	〇	1.5	〇	〇	始	〇	2	〇	2	〇	発生期			●	〇	〇	〇	〇	1	
			普	〇	1.5	〇	〇	2	〇	2	〇	2	〇	〇			〇	〇	〇	〇	2		
		九州	早	〇	1.5	〇	〇	2	〇	2	〇	2	〇	発生期			〇	〇	〇	〇	〇	1.5	
			普	〇	1.5	〇	〇	2	〇	2	〇	2	〇	〇	発生期			〇	〇	〇	〇		

Ⅶ-2 1. CH-904 粒	「継」
Ⅶ-2 2. CH-904○ 粒	「継」
Ⅶ-2 3. CH-906 粒	「継」
Ⅶ-2 4. CH-906○ 粒	「継」
Ⅶ-2 5. CH-907 粒	「継」
Ⅶ-2 6. DJL-367-1kg 粒	「継」
Ⅶ-2 7. DPX-47K-1kg 粒	「継」
Ⅶ-2 8. DPX-47K○-1kg 粒	「継」
Ⅶ-2 9. DPX-47SC 粒	「継」
Ⅶ-2 10. DPX-47TD-1kg 粒	「継」

VII-2 つづき

	処理法	地域名	作期	デ1	一年広葉マツ	ナリ	ウナギ	ミナミ	ハナ	カウ	カウ	ヒル	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	壤土	壤土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 11. DPX-84MN (IBMY-911) 粒 II-6-(1) 2 II-6-(6) 1 併用	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生	●発生	●切再生前	+10~+20 ($\times$ 12.5L)	300 g/a	●	●	●	●	2	(42)
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2	●始		●発生	●発生	●切再生前	+5~ $\times$ 12.5L			●	●			
		北陸												●切再生前								
		関東・東山・東海	早											●切再生前								
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	デ1	一年広葉マツ	ナリ	ウナギ	ミナミ	ハナ	カウ	カウ	ヒル	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	壤土	壤土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 12. DPX-84MNO (IBMY-911) 粒 II-6-(1) 3 併用	茎葉兼土壌処理	北海道																				
		東北																				
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2							+5~デ12.5L	300 g/a	●	●	●	●	2	(28) (34) (42)
		関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2		●始		●発生	●発生	●切再生前			●	●	●	●	1.5	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2		●始		●発生	●発生	●切再生前			●	●	●	●	2	
		近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2		●始				●切再生前			●	●	●	●	1	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2		●始				●切再生前			●	●	●	●	1.5	
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2		●始				●切再生前			●	●	●	●	1	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2		●始				●切再生前			●	●	●	●	1.5	
		九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生					●	●	●	●		
			普	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生					●	●	●	●		

クログワイに有効剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(関東～四国)

	処理法	地域名	作期	デ1	一年広葉マツ	ナリ	ウナギ	ミナミ	ハナ	カウ	カウ	ヒル	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	壤土	壤土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 13. DPX-84SC-1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生	●発生	●切再生前	+5~+20 ($\times$ 12.5L)	100 g/a	●	●	●	●	2	(42)
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2	●始		●発生	●発生	●切再生前	+5~ $\times$ 12.5L			●	●	●		
		北陸												●切再生前								
		関東・東山・東海	早											●切再生前								
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

Ⅶ-2 つづき

	処理法	地域名	作期	㏽I	一年広葉マツバ	㏽II	㏽III	ミヅナ	ハナタチ	知㏽イ	オトコ	ヒムロ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 14. DPX-84 SCQ-1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道													+5~㏽I2.5L	100 g/a					1	(28) (34)
		東北										発生期		㏽II ●再生前								
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期		㏽II ●再生前			●	●	●			
		関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2				発生期	発生期	㏽II ●再生前			●	●	●			
			普	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生期	㏽II ●再生前			●	●	●			
		近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生期	㏽II ●再生前			●	●	●			
			普	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生期	㏽II ●再生前			●	●	●			
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生期	㏽II ●再生前			●	●	●			
			普	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生期	㏽II ●再生前			●	●	●			
		九州	早																			
			普	●2.5	●	●2	●2	●2									●	●	●			

	処理法	地域名	作期	㏽I	一年広葉マツバ	㏽II	㏽III	ミヅナ	ハナタチ	知㏽イ	オトコ	ヒムロ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 15. DPX-84T 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		○2.5	○	○2	○2		○2			○始	○発生期	○*	+5~+20 (㏽I 2.5L)	300 g/a	○1.5	○	○	○	2	(26) (28) (36) (38) (42) (44)
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○発生期	○発生期	○*			○	○	○			
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○発生期	○発生期	○*			○	○	○			
		関東・東山・東海	早												*I/㏽II効力 1~4L (20cm以下) **㏽II始 本葉展開期 ***㏽II始 発生始~盛							
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

クログワイに有効な剤との組み合わせで適年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北)

	処理法	地域名	作期	㏽I	一年広葉マツバ	㏽II	㏽III	ミヅナ	ハナタチ	知㏽イ	オトコ	ヒムロ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 16. DPX-84T -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		○2.5	○	○2	○2		○2			○発生期	○前	○*	+5~+20(㏽I2.5L)	100 g/a	○1.5	○	○	○	2	(26) (28) (36) (38) (42)
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始	○発生期	○始	○**			○	○	○			
		北陸													* I/㏽II効力 始~2L ** ㏽II効力 発生始~盛							
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

VII-2 つづき

	処理方法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マカバ	ササバ	クナ	ミチガハ	ハシバ	コノハ	アキハ	ヒメムシ	藻類表層剥離	切取開始	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	塩壌土	減水深 cm/d	使用上の注意				
VII-2 22. NC-311 SC① -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		○2.5	○	○2	○2			○2			○発生期	○前	+5~+20(ベ12.5L)	100g/a	1.5	○	○	○	2	(28) (34)			
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2				○発生期	○前	+5~+12.5L		○	○	○						
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2					○		○前		切取開始		○	○					
		関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2		●2												●	●		1.5		
			昔	●2.5	●	●2		●2												●	●		●	2	
		近畿・中国	早																						
			昔	●2.5	●	●2	●2	●2							●発生期		●前				●		●	●	1
		四国	早																						
			昔	●2.5	●	●2	●2	●2							●発生期		●前				●		●	●	
		九州	早												●発生期										
		昔	●2.5	●	●2	●2	●2						●発生期						●	●	●	1.5			

[illegible]

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、関東～九州)
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、関東～九州)
コウキヤガラに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北)

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツ	杉	クロガ ツバ	ミナ ツバ	ハナ ツバ	カブ イ	ササ コ	ヒノ コ	落 葉 剥離			処理時期	使用 量・ 製品	砂 土 1.5	壤 土	植 填 土	植 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-2 24. NC-311T -1kg 粒	茎葉糞土壤処理	北海道		○2.5	○	○2	○2		○2			○発生 期	○前	○再生 始	*+5 ~ +20 (7~12.5L) +5 ~ +12.5L	100 g/a	○	○	○	○	2	(26) (28) (36) (38) (40) (42)		
		東北		○2.5	○	○2	○2	○2	○2	○始	○始			○前	○再生 始			○	○	○	○			
		北陸		○2.5	○	○2	○2	○2	○2										○	○	○			
		関東・東山・東海	早	○2.5	○	○2	○2							発生					○	○	○			
			昔	○2.5	○	○2		○2						○再生 始	○前	○再生 始				○	○	○		
		近畿・中国	早	○2.5	○	○2	○2	○2					○発生 期	○発生 期	○前	○再生 始				○	○	○	1	
			昔	○2.5	○	○2	○2	○2					●発生 期	○前	●始					○	○	○		
		四国	早	○2.5	○	○2	○2	○2					○発生 期	○発生 期	○前	○再生 始	*1ツバカサ始 **3ツバカサ始			○	○	○		
			昔	○2.5	○	○2	○2	○2					●発生 期	○前	●始					○	○	○		
		九州	早	●2	●	●2	●2	●2					●発生 期	発生			+5 ~ 12L		●	●	●	●		
	昔	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生 期	●前			+5 ~ 12.5L			●	●					

VII-2 つづき

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マツ	ササ	ツグ	ミナツ	ハナツ	カサ	ヒメ	落類 表層 剥離		処理時期	使用・ 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意					
Ⅶ-2 25. NC-3260 粒	茎葉葬土壌処理	北海道																								
		東北																								
		北陸																								
		関東・東山・東海	早												+5 ~12.5L	300 g/a					2	(28) (34)				
		近畿・中国	早	〇2.5	〇	〇2	〇始	〇2				〇	〇前	〇再					〇	〇	〇		〇	1		
			普	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2					〇	〇前			〇再			〇	〇		〇	〇		
		四国	早	〇2.5	〇	〇始	〇2	〇2					〇	〇前			〇始				〇		〇	〇		
			普	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2													〇		〇	〇		
		九州	早	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2					〇	〇前									〇	〇		
			普	〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2					〇	〇前									〇	〇	〇	1.5
					〇2.5	〇	〇2	〇2	〇2					〇			〇前						〇	〇	〇	

		処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉マツバ	ササ	ツグ	ミナツ	ハナツ	カサ	ヒメ	落葉 表層剥離			処理時期	使用 量・製品	砂 壌土	壤 土	埴 土	埴 土	減水深 cm/d	使用上 の注意				
Ⅶ-2 26. NC-329 粒 Ⅱ-6-(1) 11 Ⅱ-6-(2) 5 併用	莖葉兼土壌処理	北海道	●2.5 ● ●2 ●2 ●2 ●2									●発生期	●発生期	●再生前	●**	+10 ~ +20 (+12.5L) +5 ~ +12.5L	300 g/a		●	●	●		2	(34) (38) (40) (41) (42)			
		東北	○2.5 ○	○2 ●2 ○2 ○2 ○2 ○始	○始	○始				●発生期	●発生期	●再生前	○*														
		北陸	○2.5 ○	○2 ●2 ○2 ○2 ○2 ○始	○始					●発生期	●発生期	●再生前															
		関東・東山・東海	早	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2						●発生期	●発生期	●再生前	* 刈: 始 ** 刈: 始 : 始-2L					●	○	○	○					
		普	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2		●始	●始	●発生期	●発生期	●再生前									●	○	○	○					
		近畿・中国	早	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2						●発生期	●発生期	●再生前								○	○			○	1	
		普	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2		●始	●始	●発生期	●発生期	●再生前				+5~+12.5L				○	○	○	○						
		四国	早	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2						●発生期	●発生期	●再生前								○	○			○		
		普	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2		●始	●始	●発生期	●発生期	●再生前				+5~+12.5L				○	○	○	○						
		九州	早	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2						●発生期	●発生期	●再生前									○			○		
		普	○2.5 ○	○2 ○2 ○2 ○2		●始		○期	●前					+5~+12.5L		1		●	○	○	○				1.5		

クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(東北、関東～九州)
オモダカに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。(北陸～四国)

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年 広葉 マツバ	ササ	ツグ	ミナツ ツグ	ハナツ ツグ	カサ ツグ	ヒメ ツグ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 壌 土	埴 土	減水深 cm/d	使用上の注意			
Ⅶ-2 27. NC-329 -1kg 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●	●	再生 前 ●	+10 ~ +20 (+12.5L) +5~+12.5L	100 g/a		●	●	●	2	(28) (34)		
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2			●	●	再生 前 ●					●	●			●	
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2	●2	●2			●	●			再生 前 ●			●			●	●
		関東・東山・東海	早											再生 前 ●										
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●	再生 前 ●					●	●			●	
		近畿・中国	早											再生 前 ●										
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●	再生 前 ●					●	●			●	
		四国	早											再生 前 ●										
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●	再生 前 ●					●	●			●	
		九州	早											再生 前 ●										
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●	再生 前 ●					●	●			●	

VII-2
28. NC-343 粒 「継」

VII-2
29. NC-344 粒 「継」

VII-2
30. NC-345 粒 「継」

VII-2 つづき

VII-2
31. NCH-903 粒 「継」VII-2
32. NSK-860 粒 「継」VII-2
33. NSK-860D 粒 「継」VII-2
34. TH-913ADE-1kg 粒 「継」

処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	杉	ツグミ	ミズナリ	スギ	カシ	クヌ	ヒノ	落葉表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 35. TH-913 粒 SN	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●発生前	●再生前	+10~元12.5L	1.5	●	●	●	●		(28) (34)
	東北		●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●再生前	+5~元12.5L	300 g/a	●	●	●	●	2	
	北陸		●2.5	●	●2	●2	●2						●始			●	●	●	●		
	関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●	1.5	
	普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●	2	
	近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●	1	
	普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●	1.5	
	四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●	1	
	普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●	1.5	
	九州	早	●2.5	●	●2		●2				●発生期	●発生前	●始			●	●	●	●	1	
	普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前				●	●	●	●		

処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	杉	ツグミ	ミズナリ	スギ	カシ	クヌ	ヒノ	落葉表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 36. TH-913 粒 SSC	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●発生前	●再生前	+10~元12.5L	1.5	●	●	●	●	2	(28) (34)
	東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2			●発生期	●発生前	●再生前	+5~元12.5L	300 g/a	●	●	●	●		
	北陸		●2.5	●	●2	●2	●2						●始			●	●	●	●		
	関東・東山・東海	早	●2.5	●	●2	●2	●2									●	●	●	●	1	
	普	●2.5	●	●2	●2	●2										●	●	●	●	1.5	
	近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●	1	
	普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●		
	四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●		
	普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前	●再生前			●	●	●	●		
	九州	早	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●始			●	●	●	●		
	普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●発生前				●	●	●	●	1.5	

VII-3-(1) 長期持続型一発処理剤

処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マツ	杉	ツグミ	ミズナリ	スギ	カシ	クヌ	ヒノ	落葉表層剥離	切	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-3-(1) I. DM-72 粒 II-6-(1) 1 併用	北海道		○1.5	○	○2	○2		○2			○発生期	○発生前	○再生前	+5~元11.5L	300 g/a	○	○	○	○	2	(3) (26) (28) (38) (42)
	東北		○1.5	○	○2	○2	○2		○始	○始	○発生期		○再生前			○	○	○	○		
	北陸												○始								
	関東・東山・東海	早																			
	普																				
	近畿・中国	早																			
	普																				
	四国	早																			
	普																				
	九州	早																			
	普																				

VII-3-(1) つづき

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マリン	オキイ	ウカ	ミカ	ハカ	カウイ	カウイ	ヒム	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意	
Ⅶ-3-(1) 2. DPX-84T 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●発生前	●再生前	●**	+5~+20 (元12.5L) +5~元12.5L	1.5 300 g/a	●	●	●	●	2	
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期	●発生前	●再生前					●	●			
		北陸															**12/7~カウイ 発生始 ~2L						
		関東・東山・東海	早																				
			普																				
		近畿・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
			普																				

	処理法	地域名	作期	元1	一年 広葉 マリン	オキイ	ウカ	ミカ	ハカ	カウイ	カウイ	ヒム	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意	
Ⅶ-3-(1) 3.DPX -84TD◎ 粒	茎葉兼土 壌処理	北海道																					
		東北																					
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2							●再生 前 S 始	+5~元12.5L	300 g/a		●	●	●	2	
		関東 ・東山 ・東海	早																				
			普																				
		近畿 ・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
			普																				

VII-3-(1)
4. KUH-921-1kg 粒 「継」VII-3-(1)
5. KUH-922-1kg 粒 「継」VII-3-(1)
6. KUH-926-1kg 粒 「継」VII-3-(1)
7. KUH-926-1kg 粒 「継」

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マリン	オキイ	ウカ	ミカ	ハカ	カウイ	カウイ	ヒム	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意		
Ⅶ-3-(1) 8.NC-311T 粒	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●発生前	●再生前	●**	+5 ~ +20 (元12.5L) +5~元12.5L	1.5 300 g/a	●	●	●	●	2		
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2	●2			●発生期	●発生前	●再生前					●	●	●			
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2											●	●	●			
		関東・東山・東海	早														**12/7カウイ発生始~2L							
			普																					
		近畿・中国	早																					
			普																					
		四国	早																					
			普																					
		九州	早																					
			普																					

VII-3-(1) つづき

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツバ	オハ	ウカ	ミカ	ハカ	カク	カク	ヒム	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-3-(1) 9. NC-326 粒 II-6-(1) 9 II-6-(2) 3 併用	土壌処理	北海道		02.5	0	02	02		02			0発生	0発生	1971年~2L +10~+20 (カ1 2.5L) +5 カ1 2.5L	300 g/a	1.5	0	0	0	2	(28) (38) (40) (42)
		東北		02.5	0	02	02	02	02	0始	0前	0期	0前				0	0	0		
		北陸		02.5	0	02	02	02			0前		0始				0	0	0		
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

VII-3-(2) 一年生持株型除草剤

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツバ	オハ	ウカ	ミカ	ハカ	カク	カク	ヒム	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-3-(2) 1. CG-187 粒	土壌処理	北海道																			
		東北																			
		北陸																			
		関東・東山・東海	早	●2	●	●2								+3~ノビエ2L	300 g/a		●	●	●	2	
			普	●2	●	●2											●	●	●		
		近畿・中国	早	●2	●	●2											●	●	●	1	
			普	●2	●	●2												●	●	1.5	
		四国	早	●2	●	●2											●	●	●	1	
			普	●2	●	●2												●	●	1.5	
		九州	早																		
			普																		

VII-3-(2)
2. CH-902 粒 「継」

VIII-1 少量散布法

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マツバ	オハ	ウカ	ミカ	ハカ	カク	カク	ヒム	藻類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VIII-1 1. KUH-883 粒 II-6-(1) 5 併用	土壌処理	北海道																			
		東北		02	0	02	02	02	02	●始		0発生	0発生	+5~+20 (カ1 2L)	300 g/a	0	0	0	0	2	*(28) (42)
		北陸										0期	0前								
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

* 初期剤を前処理に少量散布することにより除草効果向上（東北）
クログワイに有効な剤との組み合わせで連年施用することにより、さらに効果が向上する。（東北）

Ⅶ-2 少量散布

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツバ	オシロイ	カカ	ミカサツ	ハラタツ	カクイ	オシロイ	ビロイ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 1. CG-113 粒	土壌処理	北海道		○1	○	○始			○始						植代後～4, +0～+5 …………… (ベI 1L) ……………	150 ～200 g/a 少量散布	●	○	○	○	2	*
		東北		○1	○	○始	●始	○始									○	○	○	○		
		北陸		○1	○	○始											○	○	○	○		
		関東・東山・東海	早	○1	○	○始	○始										○	○	○	○		
			普	○1	○	○始											○	○	○	○		
		近畿・中国	早	○1	○	○始	○始										●	○	○	○	1	
			普	○1	○	○始	○始										○	○	○	○	1.5	
		四国	早	○1	○	○始	○始										●	○	○	○	1	
			普	○1	○	○始	○始										○	○	○	○	1.5	
		九州	早	○1	○	○始	○始										○	○	○	○	1.5	
			普	○1	○	○始											○	○	○	○	1	

* 一発処理型除草剤の前処理として少量散布(150～200g/a)が可能

水稲関係除草剤使用基準一覧表の表示について

- 過年度、既に実用化の認められている適用草種・土壌条件に○を印した。(本年度の試験の結果、特に拡大のない場合も含む。)
草種欄の数字、字句で草種の葉齢を示した。[例: ○前(発生前)、○2(2葉期まで)]
ⅣおよびⅤの項目の地域名の○は前年度までに実用化の認められている地域を示し、●は本年度新たに実用化の認められた地域を示した。
使用上の注意は別途一覧表の番号で記し、一覧表にない注意事項の場合は*を付し、欄外に字句を記載した。
- 本年度、新たに使用基準が作成された場合は、実用化可能となった適用草種・土壌に●を印し、処理時期・使用量を記載した。
- 過年度の基準に適用条件拡大が可能となった場合
作期の拡大: 拡大可能となった作期の適用草種・土壌に●を印した。
草種の拡大: 拡大可能となった草種に●を印した。
葉齢の拡大: 拡大可能となった葉齢にアンダーラインを付した。(例: ○2.5)
処理時期、使用量の拡大: 拡大部分にアンダーラインを付した。(例: +3 ~ ベI2L、50 ~ 75ml/a)
土壌条件の拡大: 拡大可能となった土壌に●を印した。
- 「継」、「継?」、「中止」の場合は判定のみ記載した。

第5表 平成4年度水稲作関係除草剤ジャンボ剤使用基準一覧表

II-2 移植前後土壌処理

II-2
1.CG-199 ジャンボ 「継」

処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マシイ	木刈	刈刈	ミカ刈	ハラ刈	刈刈イ	刈刈	ヒムシ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 2.CG-200 ジャンボ	土壌処理	北海道	●1	●	●始			●始				●前	+0~+10(元IIL)	50x2 g/a	●	●	●	1	(45) (46)
		東北	●	●	●							●前	+3 ~ +5			●	●		
		北陸	●	●	●		●						植代後 ~ -4, 元I +0 ~ +3			●	●		
		関東・東山・東海	早																
			普																
		近畿・中国	早										植代後 ~ -4 +3 ~ 元IIL						
			普	●1	●	●始						●前			●	●	●		
		四国	早																
			普	●1	●	●始						●前			●	●	●		
		九州	早																
			普																

II-2
3.KPP-2005 ジャンボ 「継」

処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マシイ	木刈	刈刈	ミカ刈	ハラ刈	刈刈イ	刈刈	ヒムシ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 4.MO-338 ジャンボ	土壌処理	北海道	●1	●									植代後 ~ -4, +0~+6(元IIL)	25x4 g/a	●	●	●	1	(45) (46)
		東北	●1	●									+0 ~ +3			●	●		
		北陸	●1	●									植代後 ~ -4, +0 ~ +3 (元IIL)			●	●		
		関東・東山・東海	早																
			普	●1	●											●	●		
		近畿・中国	早																
			普	●1	●											●	●		
		四国	早																
			普	●1	●											●	●		
		九州	早										植代後 ~ -4						
			普	●	●											●	●		

処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マシイ	木刈	刈刈	ミカ刈	ハラ刈	刈刈イ	刈刈	ヒムシ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-2 5.MTS-1 ジャンボ	土壌処理	北海道	●1	●	●始								植代後 ~ -4, +0 ~ +7 (元IIL)	25x4 g/a	●	●	●	1	(45) (46)
		東北														●	●		
		北陸	●1	●	●始								植代後 ~ -4, +0 ~ +3 (元IIL)			●	●		
		関東・東山・東海	早																
			普	●1	●	●始										●	●		
		近畿・中国	早																
			普	●1	●	●始										●	●		
		四国	早																
			普	●1	●	●始										●	●		
		九州	早										植代後 ~ -4						
			普	●	●	●										●	●		

II-3 移植後土壌処理

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マバ	オシ	ウカ	ミカ	ハラ	カ	カ	ヒ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壤土	壤土	植壤土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-3 1. AKD-7036 ジャンボ	土壌処理	北海道											●始	落類・表層剥離発生始	50x2 g/a		●	●	●	1	(45)
		東北											●始				●	●	●		
		北陸											●始				●	●	●		
		関東・東山・東海	早										●始								
			普																		
		近畿・中国	早										●始				●	●	●		
			普																		
		四国	早										●始				●	●	●		
			普																		
		九州	早										●始				●	●	●		
			普										●始				●	●	●		

II-3
2. Y-873 ジャンボ

「継」

II-3
3. プロメトリン バック

「継」

II-5 適用時期拡大

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マバ	オシ	ウカ	ミカ	ハラ	カ	カ	ヒ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壤土	壤土	植壤土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
II-5 1. モリネットSM ジャンボ	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●3	●4		●4					+15 ~ 元12.5L	50x2 g/a		●	●	●	1	(1) (8) (21) (45) (47)
		東北																			
		北陸																			
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

VII-1 初期一発処理剤

	処理法	地域名	作期	元1	一年広葉マバ	オシ	ウカ	ミカ	ハラ	カ	カ	ヒ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壤土	壤土	植壤土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 1. DPX-84CG ジャンボ	土壌処理	北海道		●1.5	●	●始	●始		●始			●発生期	●前	+5 ~ 元11.5L	75x2 g/a		●	●	●	2	(26) (28) (45) (47)
		東北		●1.5	●	●始	●始	●始	●始				●再生前				●	●	●		
		北陸											●再生前								
		関東・東山・東海	早										●再生前								
			普										●再生前								
		近畿・中国	早										●再生前								
			普										●再生前								
		四国	早										●再生前								
			普										●再生前								
		九州	早										●再生前								
			普										●再生前								

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツバ	ナツイ	ウカ	ミナツ	ハナツ	カクイ	ナツ	ヒメ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 2.DPX-84CGQ ジャンボ	土壌処理	北海道													+5 ~ ㌞11.5L	75x2 g/a						(26) (28) (34) (45) (47)
		東北																				
		北陸		●1.5	●	●始	●始	●始									1	●	●	●	1	
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●始	●始	●始									1	●	●	●	1.5	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始										●	●	●		
		近畿・中国	早																			
			普	●1.5	●	●始	●始	●始						●再生前				●	●	●	1	
		四国	早											●								
			普	●1.5	●	●始	●始	●始						●				●	●	●		
		九州	早																			
			普	●1.5	●	●2	●2	●始										●	●	●		

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツバ	ナツイ	ウカ	ミナツ	ハナツ	カクイ	ナツ	ヒメ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 3.DPX-84M ジャンボ	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●前	●再生前	+7 ~ ㌞11.5L	80x2 g/a	1.5	●	●	●	2	(28) (45) (47)
		東北												●再生前								
		北陸												●								
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

	処理法	地域名	作期	ベI	一年広葉マツバ	ナツイ	ウカ	ミナツ	ハナツ	カクイ	ナツ	ヒメ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 4.DPX-84MQ ジャンボ	土壌処理	北海道													+5 ~ ㌞11.5L	80x2 g/a						(28) (45) (47)
		東北																				
		北陸		●1.5	●	●始	●始										1	●	●	●	2	
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●始	●始	●始									1	●	●	●	1.5	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始										●	●	●		
		近畿・中国	早	●1.5	●	●始	●始	●始						●再生前				●	●	●	1	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始						●				●	●	●		
		四国	早	●1.5	●	●始	●始	●始						●再生前				●	●	●		
			普	●1.5	●	●始	●始	●始						●				●	●	●		
		九州	早																			
			普																			

VII-1
5.HOK-915D ジャンボ 「継」VII-1
6.HOK-915DQジャンボ 「継」

Ⅶ-1 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マダヒ	オシロイ	ウチワ	ミナソウ	ハラモ	カクイ	ヒメシロ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 7. KUH-883 ジャンボ	土壌処理	北海道		●1.5	●	●始	●始		●始		●発生期	●前	●切再生前	+5 ~ 元11.5L	30x2 g/a	●1.5	●	●	●	2	(28) (45) (47)
		東北		●1.5	●	●始	●始	●始	●始				●切再生前			●	●	●	●		
		北陸											●切再生前			●	●	●	●		
		関東・東山・東海	早										●切再生前								
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	オシロイ	ウチワ	ミナソウ	ハラモ	カクイ	ヒメシロ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴壌土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-1 8. KUH-883○ ジャンボ	土壌処理	北海道												+5 ~ 元11.5L	30x2 g/a					1.5	(26) (34) (45) (47)
		東北																			
		北陸		●1.5	●	●始	●始	●始	●始								●	●	●	●	
		関東・東山・東海	早	●1.5	●	●始	●始	●始	●始								●	●	●	●	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始	●始												
		近畿・中国	早														●	●	●	●	
			普	●1.5	●	●始	●始	●始	●始								●	●	●	●	
		四国	早																		
			普	●1.5	●	●始	●始	●始	●始								●	●	●	●	
		九州	早																		
			普	●1.5	●	●2	●始										●	●	●	●	1.5

Ⅶ-1
9. KUH-891 ジャンボ 「継」Ⅶ-1
10. KUH-891○ジャンボ 「継」

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	オシロイ	ウチワ	ミナソウ	ハラモ	カクイ	モロコ	ヒメシロ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	埴土	埴土	減水深 cm/d	使用上の注意		
Ⅶ-1 11. NC -311CG ジャンボ	土壌処理	北海道		●1.5	●	●2	●2		●2			●発生期	●前	●切再生前	+5 ~ 元11.5L	50x2 g/a		●	●	●	2	(26) (28) (45) (47)		
		東北																						
		北陸		●1.5	●	●始	●始	●始												●	●		●	1.5
		関東・東山・東海	早																					
			普	●1.5	●	●始	●始	●始													●		●	●
		近畿・中国	早																					
			普																					
		四国	早																					
			普																					
		九州	早																					
			普																					

Ⅶ-1 つづき

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツバ	ナリ	ウカ	ミカ ツバ	ハナ ツバ	カウ イ	ナツ ツバ	ヒメ ツバ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 12. NC -311CGQ ジャンボ	土壌 処理	北海道												+3 ~ ㊦11.5L	50×2 g/a					1	(26) (34) (45) (47)
		東北																			
		北陸																			
		関東 ・東山 ・東海	早																		
			普																		
		近畿 ・中国	早																		
			普	●1.5 ●	●始	●始	●始						●再生 前			●	●	●			
		四国	早																		
			普	●1.5 ●	●始	●始	●始						●始			●	●	●			
		九州	早																		
			普																		

Ⅶ-1
13. NC-311SS ジャンボ 「継」

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツバ	ナリ	ウカ	ミカ ツバ	ハナ ツバ	カウ イ	ナツ ツバ	ヒメ ツバ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 14. NSK -850D ジャンボ	土壌 処理	北海道		●1.5 ●	●2	●2		●2			●発生期	●前	●切 再生 前 ス 始	+5 ~ ㊦11.5L	50×2 g/a		●		●	2	(28) (45) (47)
		東北																			
		北陸																			
		関東 ・東山 ・東海	早																		
			普																		
		近畿 ・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	1年 広葉 マツバ	ナリ	ウカ	ミカ ツバ	ハナ ツバ	カウ イ	ナツ ツバ	ヒメ ツバ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意
Ⅶ-1 15. NSK -850DQ ジャンボ	土壌 処理	北海道												+5 ~ ㊦11.5L	50×2 g/a					1	(28) (34) (45) (47)
		東北																			
		北陸		●1.5 ●	●始	●始	●始										●	●	●		
		関東 ・東山 ・東海	早																		
			普	●1.5 ●	●始	●始	●始											●	●		
		近畿 ・中国	早																		
			普	●1.5 ●	●始	●始	●始										●	●	●		
		四国	早																		
			普	●1.5 ●	●始	●始	●始										●	●	●		
		九州	早																		
			普																		

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	デI	一年 広葉 マツバ	オウイ	ウカ	ミカツ	ハラ カ	カウ イ	モカ	ヒム シ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	埴 壌 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意				
VII-1 16. SL-496 ジャンボ	土壌処理	北海道		●1.5	●	●始	●始		●始			●発生期			+3 ~ デ11.5L	25x4 g/a		●	●	●	2	(7) (17) (45) (47)				
		東北																								
		北陸																								
		関東 ・東山 ・東海	早																							
			普																							
		近畿 ・中国	早																							
			普																							
		四国	早																							
			普																							
		九州	早																							
			普																							

	処理法	地域名	作期	デI	一年 広葉 マツバ	オウイ	ウカ	ミカツ ツメ	ハラモ	カウイ	モカ	ヒムシ ロ	藻類 表層 剥離		処理時期	使用 量・ 製品	砂 壌 土	壤 土	塘 壌 土	塘 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意		
Ⅶ-1 17. SL-496○ ジャンボ	土壌 処理	北海道													+3 ~ デ11.5L	25x4 g/a					2	(7) (17) (45) (47)		
		東北		●1.5	●	●始													●	●				
		北陸		●1.5	●	●始													●	●				
		関東 ・東山 ・東海	早																					
			普	●1.5	●	●始	●始													●	●			
		近畿 ・中国	早																					
			普	●1.5	●	●始	●始	●始												●	●		●	
		四国	早																					
			普	●1.5	●	●始	●始	●始													●		●	●
		九州	早																					
			普	●1.5	●	●2	●2	●始															●	●

	処理法	地域名	作期	デI	一年広葉マツバ	オウイ	ウカ	ミカツ	ハラモ	カウイ	モカ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	塘壌土	塘土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 18. SL-498○ ジャンボ	土壌処理	北海道		●1.5	●	●始	●始		●始			●始	●前		+3 ~ ㊦11.5L	25x4 g/a	●1.5	●	●	●	2	(7) (17) (45) (47)
		東北																				
		北陸																				
		関東・東山・東海	早																			
			普																			
		近畿・中国	早																			
			普																			
		四国	早																			
			普																			
		九州	早																			
			普																			

VII-1 つづき

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	オシロイ	ウツク	ミヅナ	ハサキ	カクイ	オシロイ	ヒムロ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-1 19. SL-498 ジャンボ	土壌処理	北海道												+3 ~ 元I. 5L	25x4 g/a					2	(7) (8) (17) (45) (47)
		東北		●1.5	●	●始	●始	●始					●前					●	●		
		北陸		●1.5	●	●始											●	●	●		
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普	●1.5	●	●始	●始	●始									●	●	●		
		四国	早																		
			普	●1.5	●	●始	●始	●始									●	●	●		
		九州	早																		
			普																		

VII-1
20. SL-500 ジャンボ 「継」

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	オシロイ	ウツク	ミヅナ	ハサキ	カクイ	オシロイ	ヒムロ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意	
VII-1 21. SW-918① ジャンボ	土壌処理	北海道		●1.5	●	●始	●始		●始			●始	●前	●切再生前へ始	+3 ~ 元I. 5L	50x2 g/a		●	●	●	2	(45) (47)	
		東北		●1.5	●	●始	●始	●始	●始											●	●		1
		北陸																					
		関東・東山・東海	早																				
			普																				
		近畿・中国	早																				
			普																				
		四国	早																				
			普																				
		九州	早																				
		普																					

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マツバ	オシロイ	ウツク	ミヅナ	ハサキ	カクイ	オシロイ	ヒムロ	落類表層剥離	処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植土	植土	減水深 cm/d	使用上の注意	
VII-1 22. SW-918 ジャンボ	土壌処理	北海道												+3 ~ 元I. 5L	50x2 g/a					1.5	(26) (28) (45) (47)	
		東北																				
		北陸		●1.5	●	●始	●始	●始									●	●	●			
		関東・東山・東海	早																			
			普	●1.5	●	●始	●始	●始									●	●	●	●		2
		近畿・中国	早																			
			普	●1.5	●	●始	●始	●始										●	●	●		1.5
		四国	早																			
			普	●1.5	●	●始	●始	●始										●	●	●		
		九州	早																			
	普	●1.5	●	●2	●2	●始								●	●	●	●	2				

VII-1
23. TH-913ADS① ジャンボ 「継」

VII-2 初・中期一発処理剤

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マコイ	オコイ	ウコイ	ミコイ	ハコイ	ウコイ	ヒコイ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	減水深 cm/d	使用上の注意	
VII-2 1.DPX-84SC ジャンボ	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2		●	発生期		+5 ~ 元12.5L	60x2 g/a		●	●	●	2	(28) (45) (47)
		東北																			
		北陸																			
		関東・東山・東海	早																		
			普																		
		近畿・中国	早																		
			普																		
		四国	早																		
			普																		
		九州	早																		
			普																		

	処理法	地域名	作期	元I	一年 広葉 マコイ	オコイ	ウコイ	ミコイ	ハコイ	ウコイ	ヒコイ	落類 表層 剥離		処理時期	使用 量 製品	砂 壌 土	壤 土	植 壌 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意				
Ⅶ-2 2.DPX -84SC ジャンボ	茎葉兼土壌処理	北海道												+5 ~ 元12L	60x2 g/a				1	(34) (45) (47)				
		東北																						
		北陸		●2	●	●2	●2	●2									●	●			●			
		関東・東山・東海	早																					
			普	●2.5	●	●2	●2	●2																
		近畿・中国	早	●2.5	●	●2	●2	●2							+5 ~ 元12.5L	60x2 g/a		●	●		●	●	2	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期					-1.5	●		●	●	●	1
		四国	早	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期						●		●	●	1.5	
			普	●2.5	●	●2	●2	●2					●発生期	●前					●		●	●	1.5	
		九州	早																		●	●	●	1
			普	●2.5	●	●2	●2	●2						●前					●		●	●	1.5	

	処理法	地域名	作期	元I	一年広葉マコイ	オコイ	ウコイ	ミコイ	ハコイ	ウコイ	ヒコイ	落類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	植壌土	減水深 cm/d	使用上の注意
VII-2 3.DPX-84T ジャンボ	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2		●	●前		+5 ~ 元12.5L	50x2 g/a	●	●	●	2	(26) (28) (45) (47)
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2								-1.5	●	●		
		北陸																		
		関東・東山・東海	早																	
			普																	
		近畿・中国	早																	
			普																	
		四国	早																	
			普																	
		九州	早																	
			普																	

	処理法	地域名	作期	元 広葉 マツバ	オウゴン	ウグイス	ミカド	ヘビ	ウグイス	ヒメ	落葉 表層 剥離	処理時期	使用 量・ 製品	砂 壤 土	壤 土	埴 土	埴 土	減水 深 cm/d	使用上 の注意			
VII-2 4.DPX -84TDQ ジャンボ	茎葉兼土壌処理	北海道										+5 ~ 元2.5L	50x2 g/a					1.5	(26) (28) (34) (45) (47)			
		東北																				
		北陸		●2.5 ●	●2	●2	●2										●			●	●	
		関東・東山・東海	早																			1
		普	●2.5 ●	●2	●2	●2	●2										●			●	●	
		近畿・中国	早																			
		普	●2.5 ●	●2	●2	●2	●2				●前						●			●	●	
		四国	早																			
		普	●2.5 ●	●2	●2	●2				●前							●			●	●	
		九州	早																			
普	●2.5 ●	●2	●2	●2				●発生期					●	●	●							

[illegible][illegible]

Ⅶ-2 つづき

	処理法	地域名	作期	ベ1	一年広葉マリ	オハ	カハ	ミカハ	ハカハ	カハ	カハ	ヒムシ	藻類表層剥離		処理時期	使用量・製品	砂壌土	壤土	塩壌土	塩土	減水深 cm/d	使用上の注意
Ⅶ-2 7. NC-311T ジャンボ	茎葉兼土壌処理	北海道		●2.5	●	●2	●2		●2			●発生期			+5 ~ 12.5L	50x2 g/a		●	●	●	2	(26)
		東北		●2.5	●	●2	●2	●2										●	●	●		(28)
		北陸		●2.5	●	●2	●2	●2										●	●	●		(34)
		関東	早															●	●	●		(45)
		・東山	普	●2.5	●	●2	●2	●2											●	●		(47)
		・東海																	●	●		
		近畿	早	●2.5	●	●2	●2	●2						●切				●	●	●	1	
		・中国	普	●2.5	●	●2	●2	●2						●再生				●	●	●		
			早	●2.5	●	●2	●2	●2						●前				●	●	●		
		四国	普	●2.5	●	●2	●2	●2						●始				●	●	●		
			早	●2.5	●	●2	●2	●2										●	●	●		
		九州	普	●2.5	●	●2	●2	●2				●発生期							●	●		

Ⅶ-2
8. NC-326Q ジャンボ 「継」Ⅶ-2
9. NSK-860-A ジャンボ 「継」Ⅶ-2
9. NSK-860-B ジャンボ 「継」

10. NSK-860Q-A ジャンボ「継」

10. NSK-860Q-B ジャンボ「継」

水稲関係除草剤使用基準一覧表の表示について

- 過年度、既に実用化の認められている適用草種・土壌条件に○を印した。(本年度の試験の結果、特に拡大のない場合も含む。)
草種欄の数字、字句で草種毎の葉齢を示した。[例: ○前(発生前)、○2(2葉期まで)]
使用上の注意は別途一覧表の番号で記し、一覧表にない注意事項の場合は*を付し、欄外に字句を記載した。
- 本年度、新たに使用基準が作成された場合は、実用化可能となった適用草種・土壌に●を印し、処理時期・使用量を記載した。
- 過年度の基準に適用条件拡大が可能となった場合
作 期 の 拡 大: 拡大可能となった作期の適用草種・土壌に●を印した。
草 種 の 拡 大: 拡大可能となった草種に●を印した。
葉 齢 の 拡 大: 拡大可能となった葉齢にアンダーラインを付した。(例: ○2.5)
処理時期、使用量の拡大: 拡大部分にアンダーラインを付した。(例: +3 ~ 12.5L、50 ~ 75ml/a)
土壌条件の拡大: 拡大可能となった土壌に●を印した。
- 「継」、「継?」、「中止」の場合は判定のみ記載した。

使用上の注意一覧表

- (1) 低気温及び低水温は葉害の危険性があるので使用はさける。
- (2) 処理後2日以内に低温や降雨が予想される場合は使用をさける。
- (3) ごく浅植えの場合、葉害のおそれがあるので注意する。
- (4) 移植後の深水はさける。
- (5) 深水での処理はさける。
- (6) 散布は水稻になるべくかからないようにする。
- (7) 著しい高温条件下のときは、砂壤土ではクロロシスの発生が著しいので注意する。
- (8) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。
- (9) MCP混合剤の注意事項を守る。
- (10) 処理後の灌水は48～72時間経過後に行なう。
- (11) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる。
- (12) 落水もしくは浅水で使用する。
- (13) ミズガヤツリの多い水田では早めに散布する。
- (14) ミズガヤツリに対し遅い処理では、400g/a を処理する。
- (15) ホタルイ、ミズガヤツリ優先圃場では、400g/a で処理する。
- (16) ホタルイ多発田では早めに使用する。
- (17) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。
- (18) コナギ多発田では早めに処理する。
- (19) 一年生広葉雑草多発田では400g/a とし、特にヒメミソハギが多発する水田での使用は避ける。
- (20) クログワイ防除はクログワイに有効な前処理剤との組合せで使用する。
- (21) 前処理剤との組合せで使用する。
- (22) 稀釈水量は出来るだけ少く茎葉に付着するように散布する。
- (23) ノリ面散布は避ける。
- (24) 流入、飛散等による水稻への葉害に注意する。
- (25) 周辺の作物に飛散しないように注意する。
- (26) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。
- (27) ホタルイ多発田では、ホタルイに有効な中・後期剤との組合せで使用する。
- (28) 著しい多雨条件では除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。
- (29) コウキヤガラに有効な中・後期剤との組合せで使用する。
- (30) 水稻が水面に抽出してから使用する。
- (31) 短小苗、深水条件での使用は避ける。
- (32) クログワイ防除はクログワイに有効な後期剤との組合せで使用する。
- (33) 広葉多発田での使用はさける。
- (34) 田植前に生育したミズガヤツリは、完全に防除してから使用する。
- (35) マツバイ多発田での使用はさける。
- (36) コウキヤガラ防除は、コウキヤガラに有効な剤との組合せで使用する。
- (37) クログワイ防除の場合、同一成分含有薬剤を初期剤として使用しないこと。
- (38) オモダカ防除は、オモダカに有効な剤との組合せで使用する。
- (39) ミズガヤツリ防除は、ミズガヤツリに有効な前処理剤との組合せで使用する。
- (40) シズイ防除は、シズイに有効な剤との組合せで使用する。
- (41) 散布後24時間以内から1日50mm以上の降雨が連続することが予想される場合は使用を差し控える。
- (42) クログワイ防除はクログワイに有効な剤との組合せで使用する。
- (43) エゾノサヤヌカグサ防除はエゾノサヤヌカグサに有効な剤との組合せで使用する。
- (44) クサネムが残草または後発生した場合は有効な後期剤を散布する。
- (45) 水深5～6cmの湛水条件で投入する。
- (46) 移植前処理は田面水が澄んでから投入する。
- (47) 藻類または表層剥離の発生しやすい水田では有効な剤との体系で使用する。



ひと足伸びた
馬力の一発。

シンザン粒剤は、処理適期幅が広く、農作業上極めて便利で省力化の時代に応じて、今ここに新しいタイプの初・中期一発処理除草剤の誕生です。

〈シンザン普及会〉
塩野義製薬・八洲化学工業・アグロス・
日本・バイエルアグロケム・住友化学工業
(事務局)
三井東圧化学株式会社
東京都千代田区霞が関3-2-5

水田初・中期一発処理除草剤
シンザン® 粒剤
SINZAN

©住友化学工業㈱・日本バイエルアグロケム㈱・三井東圧化学㈱の共有登録商標

新刊

植物病原菌類図説

小林享夫・勝本 謙 ほか／編

B5判 640頁 定価19,600円

日本産植物病原菌の図解集を作れないだろうかという発想のもと専門家45名の協力により完成された、わが国初の植物病原菌図説。発生の知られている450属については精緻な図版と簡潔な記載により解説。その他未詳属、検索表なども掲載。

畑作物の病害虫

—— 診断と防除 ——

高橋廣治・持田 作／編

A5判 780頁(カラー口絵48頁、カラー写真357点) 定価8,500円

イネを除く禾穀類、イモ類、マメ類などほとんどの畑作物と、チャ、コンニャク、テンサイ、サトウキビなど主要な特用作物に発生する病害虫(約550種)について、生態、防除に精通する58名の専門家が分担執筆。

呈内容見本

全国農村教育協会(略称・全農教) 〒110 東京都台東区台東1-26-6 電話/03-3833-1821 FAX/03-3833-1665

文 献 抄 録

フェニル尿素系除草剤の分離した植物クチクラを通しての浸透と構造との間の定量的 相関

Quantitative Relationships between Structure and Penetration of Phenyurea Herbicides through Isolated Plant Cuticles.
Evelyné, C., Andre, C., Georges, T. and Michel, T.
Chemosphere, **24** (2), 189~200 (1992).

¹⁴Cで標識した5種のフェニル尿素系除草剤, diuron, isoproturon, chlortoluron, monuron, fenuronの分離したトマトとコショウ果実のクチクラを用いて吸収と浸透を調べた。クチクラと水間分配係数(K_{cw})と浸透係数(P)を測定した。これらのえられたデータを9種の物理化学性との相関を調べることでより定量的構造活性相関(QSAR)で解析した。K_{cw}およびPとlog K_{ow}との間に有意な相関が、また二つの立体的変数(ΣD, 芳香環平面を見積る分子の周囲の長さ、およびΣS, 芳香環平面を見積る分子の二個の逐次置換基の間の四辺形の表面の合計)との間に良い相関が観察された。

南カリフォルニアの住居農業混成地帯からの底質、魚介類中のオキサジアゾンの残留 濃度

Oxadiazon Residue Concentrations in Sediment, Fish, and Shellfish from a Combined Residential/

Agricultural Area in Southern California.

Crane, D.B. and Youngmans-Haug, C.
Bull. Environ. Contam. Toxicol. **48** (4), 608~615 (1992).

分析法はFDAのPesticide Analytical Manualで行った。1989年にサンジェゴのクリークからとった淡水魚Red Shiners (*Notropis lutrensis*)には、オキサジアゾンが1,800~2,200 ng/g 検出された。1990年の試料もほぼ同じレベルであった。このクリークの底質からは1.3~87 ng/g乾土のオキサジアゾンが検出された。Newport 湾近くのサンジェゴクリークに移した淡水二枚貝(*Corbicula fluminea*)はオキサジアゾンを2,000 ng/g以上含んでいた。ニューポート湾に移した巻貝(*Mytilus californians*)中のオキサジアゾン濃度はクリークから遠ざかるほど低下した(83→13 ng/g)。データはニューポート湾中のオキサジアゾンの汚染源はサンジェゴクリークおよびその支流の流域にある公園、ゴルフ場、苗木畑での使用にあることを示している。

小型皿とフラスコ生物検定法を用いる除草剤の緑藻 *Selenastrum capricornutum* に対する薬害の比較評価

Comparative Assessment of Herbicide Phytotoxicity to *Selenastrum capricornutum* Using Microplate and Flask Bioassay Procedures.

St-Laurent, D., Blaise, C., Macquarrie, P., Scroggins, R. and Trottier, B.

Environ. Toxicol. and Water

Qual. 7, 35~48 (1992).

四種の対照毒物, Cr^{6+} , Cu^{2+} , Zn^{2+} , フェノールと九種の除草剤, imazamethabenz, 2,4-D, ピクロラム, グリホサート, ブロモキシニル, メトラクロール, ダイコート二臭化物, ヘキサジノン, シアナジンについて緑藻への薬害を小型皿とフラスコ法で評価した。指標種として用いた *Selenastrum capricornutum* に対する96時間 EC_{50} 値はダイコート二臭化物以外はすべての化合物で両方法によるデータはよく一致することが本質的に明らかにされた。ダイコート二臭化物の小型皿による EC_{50} 値, $4.9 \mu\text{g}/l$ はフラスコ法による EC_{50} 値, $34.2 \mu\text{g}/l$ のほぼ7倍であった。同じような除草剤の同じ, あるいは異なる緑藻に対する文献上のデータとこの研究でえられたすべてのデータを比較してそれらの一致を確認した。最も毒性の高い, シアナジンの EC_{50} 値, 小型皿 17.6, フラスコ $16.9 \mu\text{g}/l$ と最も毒性の低い, imazamethabenz の EC_{50} 値, 小型皿 89.1, フラスコ $91.1 \text{mg}/l$ とは4桁以上離れていた。この研究で述べた二種の方法による薬害の比較評価は簡単な小型皿による生物検定法は除草剤の藻類の生長阻害を評価するためのフラスコ法の適切な代案として採用できることを暗示した。

s-トリアジン除草剤の Kow の評価のための異なる解決法

Different Approaches for the Evaluation of Kow for s-Triazine Herbicides.

Finizio, A., DiGuardo, A., Arnold, A., Vighi, M. and Fanelli, R.

Chemosphere, 23 (6), 801~812

(1991).

分子のオクタノール・水間分配係数 (Kow) の正確な決定は生体異物の環境中の動態と運命を研究する上の鍵である。文献上のデータは少なく, 信頼できない。この研究では s-トリアジン類について高速液体クロマトグラフィーとフラグメント定数法によりえられた Kow 値を比較した。ガスクロマトグラフィーの保持時間と分子結合指数を用いる新しい log Kow の算出法を提案した。

ブタクロール, チオベンカルブ, クロメトキシフェンの魚, 二枚貝, エビによる蓄積と放出

Accumulation and Release of Herbicides Butachlor, Thiobencarb, and Chlomethoxyfen by Fish, Clam, and Shrimp.

Wang, Y. S., Jaw, C. G., Tang, H. C., Lin, T. S. and Chen, Y. L.

Bull. Environ. Contam. Toxicol. 48 (3), 474~480 (1992).

三種の水田用除草剤の淡水魚介類に対する48時間の半数致死濃度の100分の1から1,000分の1の水中に5~10日暴露し, 生物による蓄積をみた後, 真水に移して排泄を調べた。生物体中の除草剤の最高蓄積はコイ, テラピア, ドジョウ, 草魚, ウナギ, フナ, 淡水二枚貝 (*Corbicula fluminea*) では3~5日以内に達したが, テナガエビ (*Macrobrachium rosenbergii*) ではブタクロール7~10日, チオベンカルブ15日を要した。生物濃縮係数 (BCF) はテナガエビが最も低く, ブタクロール

ール 0.03, チオベンカルブ 0.01, クロメトキシフェン 13 であり, フナの BCF が供試生物の中で最も高く, ブタクロール 28~220, チオベンカルブ 375~874, クロメトキシフェン 391~4,708 であった。しかしこれら除草剤の放出は早く, 真水に移して 5 日後には半分以上が排泄され, 30 日後には残留は極くわずかになった。

実験室における一括処理研究により測定した好気性帯水層中の除草剤メコプロップの分解

Degradation of the Herbicide Mecoprop in an Aerobic Aquifer Determinated by Laboratory Batch Studies.

Heron, G. and Christensen, T.H. *Chemosphere*, **24** (5), 547~557 (1992).

除草剤メコプロップの分解に対する浅い好気性帯水層の潜在能力を地下水および底質の一括処理により実験室で評価した。バッチに加えたメコプロップの濃度は 65, 140, 400, 1,400 $\mu\text{g}/\text{l}$ であった。メコプロップはすべての濃度で 10°C において 200 日の試験期間中に分解した。順化期間は 20 日から 110 日に変動した。加えたメコプロップの約 50% の初期の分解は二次の誘導期まで続いた。殆んどバッチにおいて完全な分解は二次の誘導期の後に観察された。メコプロップに対する自然の分解能力は数メートルの距離内の場所により変動し, メコプロップの異なる濃度により影響される。観察された段階的な分解はメコプロップの二つの立体化学構造の分解には異なる微生物集団あるいは異なる微生物的機構が関与していることを暗示している。

四種トリアジン除草剤の非標的緑藻の生長に及ぼす影響

Effect of Four Triazine Herbicides on Growth of Nontarget Green Algae.

Hiranpradit, H. and Foy, C.L. *Weed Sci.* **40** (1), 134~142 (1992).

緑藻 *Chlamydomonas reinhardtii*, *Chlorella pyrenoidosa*, *Scenedesmus quadricauda* の培養液の比色法, 比濁法, 葉緑素測定を藻類生長の基準として用いた。研究した四種の s-トリアジンの中で cyprazine は最も藻類の生長を阻害し, 以下 atrazine > simazine > cyanazine の順であった。Cyanazine, simazine, cyprazine の *C. reinhardtii* および *C. pyrenoidosa* の葉緑素含量に及ぼす刺激的な影響もまた観察された。Cyanazine は両緑藻に最も刺激的であったが, simazine もまた刺激を示した。Cyprazine は 0.22 μM で *C. reinhardtii* に対しわずかに刺激的であったが, 同じ濃度で *C. pyrenoidosa* に対し明らかに抑制的であった。一つの試験においてアトラジンは *C. reinhardtii* をわずかに刺激した。しかし二つ以上の連続的な試験でアトラジンは抑制的であった。藻類の葉緑素含量は化学物質の藻類生長に及ぼす影響を決定する上の最良の基準であることが見いだされた。*C. reinhardtii* の培養液を四種除草剤の各々最高濃度に連続的に暴露することは増強したトリアジン耐性を持つ藻類種の選抜をまねく。

イミダゾリノン除草剤の水溶液および土壌上における光分解

Photolysis of Imidazolinone
Herbicides in Aqueous Solution
and on Soil.

Curran, W. S., Loux, M. M., Liebl,
R. A. and Simmons, F. W.

Weed Sci. **40** (1), 143~148 (1992).

数種のイミダゾリノン除草剤の水中および土壌上における光分解を調べた。Imazaquin, imazethapyr, imazapyr の100%分解を起す紫外線は水溶液中で imazamethabenz, アトラジンを経過48時間後、それぞれ87%, 8%分解した。光分解に対する感受性は次の順序で減ずる。imazaquin=imazethapyr>imazapyr>imazamethabenz>atrazine。土壌上の研究では湿った砂土から imazaquin の45%および imazethapyr の52%が照射48時間後、消失した。風乾砂土の圃場容量および風乾シルト質植壌土における除草剤の消失は多くの例で10%以下であった。アトラジンの光分解は検出されない。この調査はイミダゾリノン除草剤の水中光分解が速いことを示している。きめの粗い構造の湿った土壌上で光分解が容易に起るのは恐らく除草剤の光化学的変換の可能性が増大するためであろう。

オーキシン型除草剤による大気汚染の監視

Air Monitoring for Pollution by
Auxin-Type Herbicides.

Beer, P. R., Smit, C. and Van
Dyk, L. P.

Chemosphere, **24** (6), 719~733
(1992).

2,4-DイソオクチルエステルはナタールのTala 溪谷における1987年から1988年にわたる大気監視行動中、法的に規制地域の外で砂糖キビ栽培農家により一般的に使用されている除草剤であるにもかかわらず、検出されなかった。

大容量の空気採取および分析方法の改善を含む各種技術が予測される極端に低い除草剤濃度を検出するために検討された。2,4-Dを含むオーキシン型除草剤の極性型が普通に検出されることは気体型中のこれらの除草剤のエステルは恐らく空気中の浮遊粒子に吸収され、極性型に化学的に変換しているであろうことを示している。オーキシン型除草剤の大気監視には蒸発および極性型の両方を検出する方法を含むべきことが極めて重要である。

メトリブジンとメトラクロールのアラスカ
亜北極地帯の農業土壌における吸着

Sorption of Metribuzin and
Metolachlor in Alaskan Subarctic
Agricultural Soils.

Graham, J. S. and Conn, J. S.

Weed Sci. **40** (1), 155~160 (1992).

メトリブジンとメトラクロールの二種の亜北極圏のアラスカの農業土壌による吸脱着を深度0~15 cmと30~40 cmについて5℃および28℃で研究した。表層土壌は深層土壌の5~8倍の有機炭素含量を持ち、両除草剤に対するフロインドリッヒ等温線の傾斜(1/n)は低かった。表層土壌のフロインドリッヒ係数(Kf)は両土壌型と平衡温度の影響を受け、土壌型はKfの変動の80%以上を占めた。表層土壌の平均Kf値はメトリブジンは1.5から2.4、メトラクロールは4.4から9.2の範囲にあった。深度30~45 cmの土壌では土壌型も温度もKfに影響を与えない。脱着に対する等温線の傾斜が吸着よりも小さいことは履歴現象を示している。脱着のKfと脱着前の除草剤の最高吸着との間の相関は決定係数(r^2), 0.50~0.99で高度に有意であった。

財日本植物調節剤研究協会 技術顧問 金澤 純

知らなかつた



初・中期一発処理除草剤
フジガラス®粒剤

水田はフジガラスを
使えばいいなんて



水田除草、新時代

フジガラス普及会
日本農薬株式会社 デュボン ジャパン リミテッド
アイ・シー・アイ・ジャパン株式会社
事務局：日本農薬株式会社 東京都中央区日本橋1丁目2番5号

®:「フジガラス」は登録商標です。

新刊 山野草・樹木生態図鑑

シダ類・裸子植物・被子植物(離弁花)編 監修/沼田 真
編者/浅野貞夫・桑原義晴

B5判・664頁・オールカラー・定価25,000円(本体24,272円)

北海道から沖縄まで日本列島に生育するシダ植物、山野草、雑草、帰化植物、樹木について、カラー写真 2,655点、図版 830点をつかい、生活型、個々の種の特徴や類似植物との区別点などを追究

姉妹編 沼田真・吉沢長人/編集

日本原色雑草図鑑

B5判/414頁(カラー1,020点)
定価10,094円(本体9,800円)

全国農村教育協会
東京都台東区台東1-26-6(植調会館)
〒110 TEL.03-3833-1821(代)

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188(代)

平成4年3月発行 定価412円(送料210円)
植調第26巻第12号 (本体400円, 消費税12円)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 柳 潤 欽 也
発行人 植 調 編 集 印 刷 事 務 所 広 田 伸 七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 株式会社

流れは一発、ワンオール



水田初期一発処理除草剤

ワンオール[®]粒剤



農 協
経 済 連
全 農

ワンオール協議会

全国農業協同組合連合会
日本チバガイギー株式会社

石原産業株式会社
八洲化学工業株式会社

事務局 石原産業株式会社

東京都千代田区富士見2-10-30



黄色いボトルの除草剤



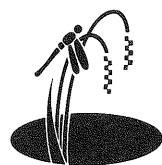
ポラリス®普及会
塩野義製薬株式会社 北興化学工業株式会社
事務局 日本モンサント株式会社 アグロサイエンス事業部
〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル Tel.(03)3287-1254

ポラリスは、茎葉吸収移行型の除草剤。
従来のようにたっぶり掛けなくても雑草全体を枯らします。
また根まで移行して枯らすのですぐに
生えるようなことはありません。

困った雑草を
きちんと枯らす
ポラリス



自信の選択。



水田除草、新時代。

水田除草に新しい時代をひらいたDPX-84剤

ブッシュ® ウルフ® ザーク®
コルボ® フジワラス®

※DPX-84の一般名はベンシルフロンメチル

(登録番号順)



デュポン ジャパン リミテッド 農業事業部
〒105 東京都港区虎ノ門2-10-1 新日産ビル・デュポンタワー TEL. (03)3224-8683

力と技の

ウルフエース

頑固な雑草に必殺一発パンチ!

これぞ
水田除草剤の
定番!!



JAグループ

農 協



経済連

自然に学び 自然を守る



クミアイ化学工業株式会社

効きめ、あざやか。

3.5葉期までのノビエを確実に防除

残効性が長く、経済的な——

水田中期除草剤

マメットSM 粒剤

クログワイなどの難防除雑草に

体系防除の中期剤としても使える——

初中期一発除草剤

ベールーフ 粒剤



JAグループ

農 協



経済連

登録商標 第1902445号

〔モリネット普及会〕

ゼネカ株式会社

株式会社トーマン

三笠化学工業株式会社

事務局：

八洲化学工業株式会社

〒103 東京都中央区日本橋本町1-9-4